



城陽市消防本部

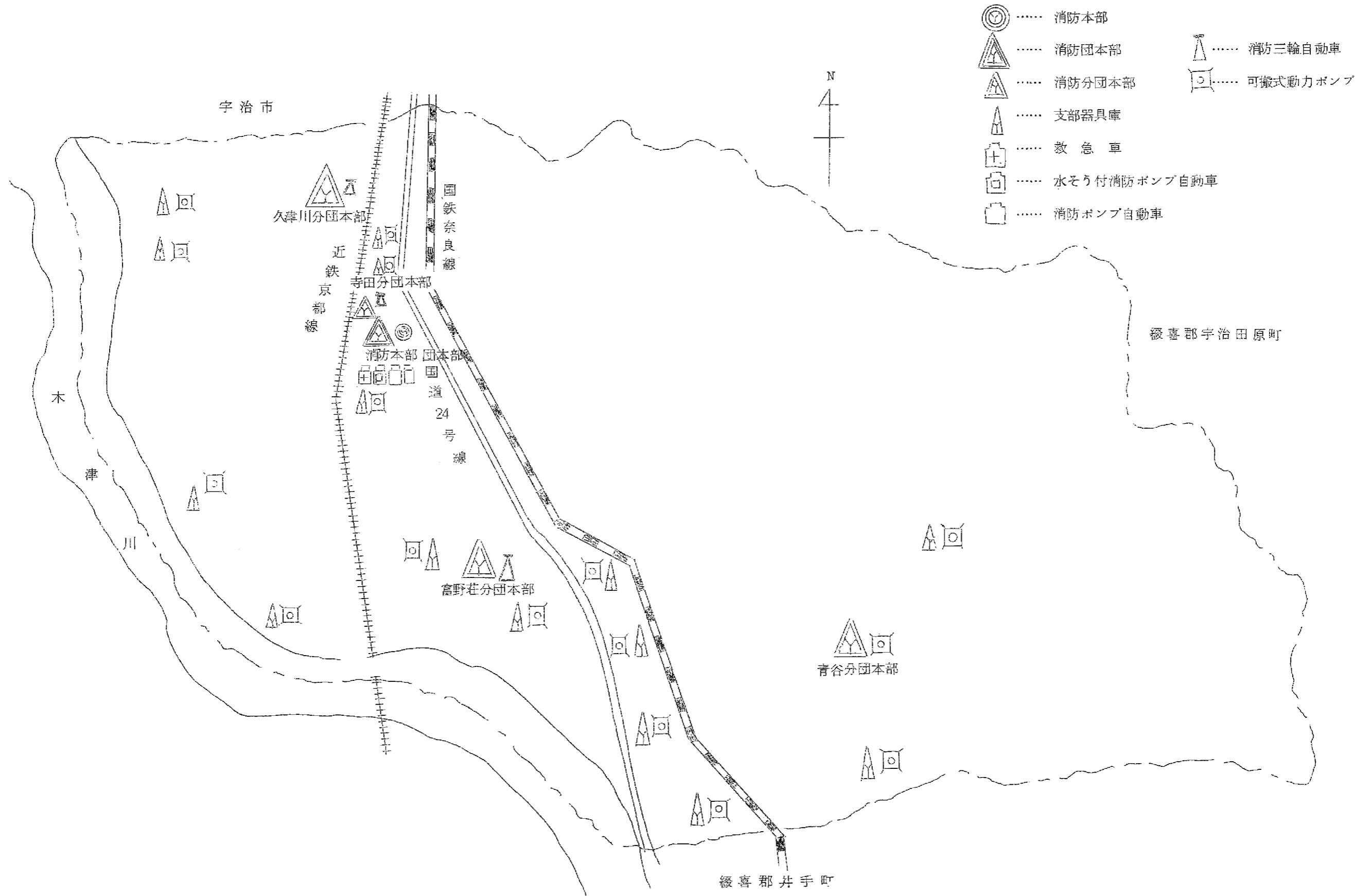
50周年 記念誌

<50th ANNIVERSARY>

JOYO
FIRE
DEPT.



発 足当時の消防施設配置図(昭和44年度 消防概況抜粋)



記念のことば

城陽市長 **奥田 敏晴**



目 次

| | |
|--------------------|-------|
| あいさつ | 1～6 |
| 署訓 | 7 |
| 消防旗 | 8 |
| 歴代消防長 | 9 |
| 消防本部の沿革 | 10～12 |
| 災害史 | 13～15 |
| 組織機構・職員統計 | 16～19 |
| 消防庁舎 | 20～21 |
| 消防車両 | 22～23 |
| 消防服 | 24～25 |
| 火災統計 | 26～33 |
| 救急統計 | 34～38 |
| 救助統計 | 39 |
| 防火対象物・危険物施設数 | 40 |
| 各課の活動 | 41～47 |
| 現有車両 | 48～52 |

本市消防本部は、昭和43年4月1日に城陽町消防本部として発足して以来、平成30年4月1日で50周年という節目を迎えることができました。

これまで城陽市の消防行政の発展に大きくご貢献いただきました皆様に深く感謝を申し上げます。

この間、我が国では阪神淡路大震災や東日本大震災等、未曾有の大災害を経験し、社会情勢もまさに激動といえる時代の変化を遂げてまいりました。科学技術の高度な発展や都市構造の複雑化などに伴い、災害の規模や態様も日々変化してきております。本市におきましてもこの傾向は例外ではなく、さまざまな要因に基づく災害が発生しており、各種災害から市民の生命、身体及び財産を守るため、地域に密着し、社会情勢、地域状況の変化に応じた消防車両及び消防資機材等の整備を行い、消防・防災力の充実・強化に努めるとともに、その使命を完遂してまいりました。

現在、本市においては、将来像を「歴史と未来をつなぎ、人をはぐくむ緑のまち・城陽」とし、「希望あふれる城陽」、「誰もが輝いている城陽」を目指し、未来に向かって大きく躍動する新たな城陽、「NEW城陽」の実現に取り組んでおり、今後の新名神高速道路の全線開通、サンフォルテ城陽の整備、東部丘陵地の土地利用、JR奈良線の高速化・複線化等、大きな転換期を迎える中で新たな各種災害に対する対応能力の充実・強化が必要であると考えており、消防本部庁舎の移転事業をはじめ、次の50年に向けてより一層の消防体制の充実強化に努めさせていただきますので、関係各位をはじめ、市民の皆様方のより一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

発足50周年を祝して

城陽市議会

議長 **増田 貴**



城陽市消防本部・消防署発足50周年、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

皆様方におかれましては、市民の生命、身体および財産を火災や地震等の災害から保護するとともに、被害を最小限にとどめるため、日夜任務に精励されておりますことに心から敬意を表します。

顧みますと、昭和43年4月、城陽町消防本部として発足して今年で半世紀。この間、消防署所の整備や消防車両等の更新、資機材の充実など消防力の強化が図られ、近代消防としての体制が著しく向上しました。2020年には新名神高速道路建設に伴い、新庁舎への移転が予定されており、今後の消防行政の発展に大いに寄与するものと期待いたします。

近年、社会情勢の変化により、火災や事故等の災害の様態は複雑多様化する傾向にあります。さらに、大規模地震や記録的豪雨等の、予測しがたい自然災害が増加しており、日頃の危機意識の保持、防災対策強化の必要性を改めて痛感いたしております。

今後とも、50年にわたる歳月の中で培われ、受け継がれてきた経験と技術力を遺憾なく発揮していただきますとともに、基礎的訓練はもとより、高度技術の習得に、なお一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

市議会といたしましても、皆様方の日々の訓練の積み重ね、危険を顧みないたゆまぬ努力の下に、私たちの安心・安全な生活が守られていることを胸に刻み、住みよいまちづくりの実現に向けて、努力を傾注してまいります。

結びにあたりまして、城陽市消防本部のさらなるご発展と、皆様方のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げ、お祝いいたします。

発刊にあたり

城陽市消防本部

消防長 **角 馨一郎**



昭和43年4月1日に発足して以来、本年度で50周年を迎えることになりました。この半世紀の間、市民の生命と財産を守るため、施設と装備の充実とともに、火災・救急・救助等の警備体制及び火災予防体制の強化を図り、消防行政の推進に努めてまいりました。

本市においては、新名神高速道路の2023年度全線開通により、近畿圏と中部圏をつなぐ広域的な交通の要衝となるため、新たなまちづくりに向けて大きな転換期を迎えております。このような中、消防本部庁舎は、災害に強く、市民に安心・安全を提供する新たな防災拠点として、2020年度の開庁を目指し、現在、移転事業を進めております。

近年の消防行政を取り巻く環境は、全国各地で発生する自然災害をはじめとし、複雑多様化、大規模広域化しており、甚大な被害が発生しております。我々消防職員は、消防機関の任務である、市民の生命、身体及び財産を各種災害から守るため、今後も全力で取り組んでまいります。

今回の発刊につきましては、城陽市消防本部50周年を記念し、本市消防行政のあゆみ、災害事情の変化等の記録を記し、諸先輩方が築き上げられてきたものを改めて振り返り、後世に残すことで、今後、本市消防本部が歩むべき姿を見定め、職員の士気の高揚及び今後の消防本部の発展を祈念することであり、この軌跡を胸に刻みながら、安心・安全な城陽の実現に向け、消防職員・消防団員一同が一丸となって取り組んでまいりますので、皆様方のより一層のご支援をお願い申し上げます。

50周年を記念して

城陽市消防団
団長 **森 均**



本年は、自治体消防制度におきましても70周年を迎える年でもあり、消防行政にとっても大変重要な節目の年でもあります。このような中、平成30年4月1日で50周年を迎えること及び「50周年記念誌」が発刊されましたことを心からお慶び申し上げます。

「五里五里の里」と呼ばれる城陽市は、二つの古都、京都と奈良のほぼ中間に位置し、日本最古級とされる芝ヶ原古墳（12号墳）や奈良時代の郡役所跡である正道官衙遺跡をはじめ、数多くの遺跡や文化財が点在し、多くの古人が街道を行き交い、文化・交通の発展を築きあげてきました。

この緑豊かなまちを各種災害から守るという使命を達成するために、これまで我々消防団は、消防本部と力を合わせて進んでまいりました。

近年は、全国各地で発生する自然災害、世界で横行しているテロなどの人的災害が後を絶たないことも事実で、未曾有の災害被害を軽減し、想定内のものにするため、今後ともさらに防災基盤の充実と消防防災体制の強化を図り「未来の城陽市の安心・安全な市民の暮らしを守る」という信念のもとに「災害に強い城陽市」を築くため、消防職員・消防団員がなご一層の協力を図り、益々の発展を期待いたしまして、お祝いのご挨拶といたします。

50周年を祝して

城陽市消防OB会
会長 **森 康高**



城陽市消防本部発足から50年という半世紀を迎え、消防の発展と歴史を記す「50周年記念誌」を発刊されるにあたりまして、市長をはじめ防災関係者各位のご尽力、市民の皆様のご理解とご協力の賜物と、深く感謝申し上げますとともに、心からお祝い申し上げます。

この機に城陽消防の歴史を回顧し、今後の展望に決意を新たにすることは、消防人として誠に意義深いことと考えます。

戦後、目まぐるしい経済発展を遂げた昭和の時代から近代化の進んだ平成への移り変わりとともに、消防を取り巻く環境は大きく変化し、それと同時に本市の消防・防災体制も先人から引き継がれた英知と情熱とともに成長を遂げてまいりました。

また、消防装備の充実、消防組織の変革などハード面とソフト面の強化が図られたことに対し、消防職員・消防団員のOBを代表して感謝申し上げます。

近年は、自然災害をはじめ、我々の経験値を超える災害が発生しており、今後発生が危惧される南海トラフ巨大地震等に備えるためにも、先人たちが築き上げてきた歴史の姿を記した記念誌は、これから消防関係者が進むべく道を示してくれる教科書であると考えております。

今後も半世紀から1世紀に向けて、消防本部が益々発展していくことを切に願ひまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

城陽消防50周年に寄せて

城陽市消防協力会

会長 **大久保 正信**



城陽市消防本部発足50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

ひとくちに50年とはいいますが、昭和43年の発足以来、消防職員並びに消防団員の皆様には昼夜を問わず、城陽市民の生命・身体・財産を守るため、火災、風水害などの各種災害の対応に、心から感謝と敬意を表します。

さて、この50年を顧みますと、平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災、平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、尊い多くの命が奪われ、忘れることができない未曾有の大災害でありましたが、市民、企業、行政の全ての人々が助け合い連携協力し、街の復興を目指す人々の力には大変勇気づけられました。

現在では、震災の経験を教訓に、各地域で防災訓練等が盛んに実施されるまでに市民の防災意識は向上し、ますます行政及び企業に対する期待は高まっています。

本会におきましても、複雑多様化する社会情勢に対応すべく、防災力の強化を推進し「安心・安全なまちづくり」のため、城陽市消防本部並びに消防団を側面から支援させていただきたいと考えております。

結びにあたり、城陽市民の期待に応えるべく、これまでの50年を礎として更なる安心安全なまちづくりに向けて邁進されますことを切に望み、消防職員・消防団員の皆様方のご健勝と、ますますのご活躍を祈念申し上げましてお祝いのことばとさせていただきます。

署訓

- 一、使命を自覚し人格の練磨に努めます
- 一、規律を守り笑顔で人に接します
- 一、責任と誠意をもつてことにあたります
- 一、交通事故や危害防止に努めます
- 一、協力一致明るい職場をつくりまします

【消防本部旗】



【消防署旗】



初代 三輪 喜重郎
昭和43.4.1～昭和52.3.31



第2代 田畑 慶次
昭和57.6.1～平成5.3.31



第3代 中村 治
平成5.4.1～平成13.3.31



第4代 中嶋 忠男
平成13.4.1～平成20.3.31



第5代 福井 善孝
平成20.4.1～平成23.3.31



第6代 下村 好司
平成23.4.1～平成25.3.31



第7代 石川 康郎
平成25.4.1～平成28.3.31

消防本部の沿革

城陽市の消防は、明治中期に消防組として発足し、当時は腕用ポンプにより、昔ながらの消火活動を行っていたが、大正末期になって、動力ポンプが製作され、手挽ポンプに切替えられるようになり、やや近代的な消防施設となった。

昭和14年4月勅令により消防組は、警防団に組織を変更し、水火災防犯並びに防空活動も行うことになった。

昭和23年3月の制度改革による消防団令が公布され、警防団を解消して新しい消防団が発足した。昭和26年4月に久津川・寺田・富野荘・青谷の4カ村が合併して、城陽町として発足したが、消防団組織は現状を維持した状態で名称は、城陽町連合消防団とした。その後、昭和27年4月に消防団を改編し、旧村単位に4ヶ分団を置く城陽町消防団として発足するに至った。

昭和40年頃より、城陽町は各種開発により都市が発展し、常備消防設置の機運が高まり、昭和43年4月に消防本部を設置、同年10月に消防長以下19名をもって城陽町消防署を設置した。以後、現在に至るまで市民の生命・身体及び財産を守るという崇高な使命のもと随時、組織改編を繰り返し、50周年を迎えるに至った。



城陽町消防本部(発足当時・庁舎前)



救急車(昭和40年後半)



城陽町消防本部消防署庁舎新築移転



消防署青谷出張所設置

- 昭和43年 4月1日 城陽町消防本部設置
10月1日 城陽町消防署設置
- 昭和44年 4月1日 城陽町消防署救急業務開始
- 昭和45年 4月1日 城陽町消防本部消防署政令指定
10月1日 城陽町救急業務政令指定
- 昭和46年 3月20日 城陽町消防本部消防署庁舎新築移転
- 昭和47年 4月1日 城陽町消防団 久世・今池分団設置
6分団制に改革
5月3日 市制施行 城陽市(府下8番目)
- 昭和50年 5月26日 京都府危険物安全協会久世郡支部から
城陽支部として独立
- 昭和53年 3月12日 城陽市消防署青谷出張所設置
- 昭和55年 9月17日 城陽市消防OB会発足
- 昭和56年 4月1日 城陽少年消防クラブ発足
城陽市危険物安全協会に改称
7月1日 城陽自衛消防隊連絡協議会発足

- 昭和57年 4月1日 LPガス城陽市域防災連絡協議会発足
6月1日 消防本部機構改革課制実施
(3課 7係 1室 1出張所)
- 昭和59年 4月1日 城陽市婦人防火クラブ発足
- 昭和61年 4月1日 消防本部機構改革実施
(2課 7係 1室 1出張所)
- 昭和63年 10月16日 第43回国民体育大会 京都大会
~19日 (柔道 馬術)開催 会場警備
- 平成元年 8月22日 京都府総合防災訓練
木津川河川敷で実施
参加機関33団体 参加人員3,300人
- 平成2年 4月1日 消防本部機構改革実施
(3課 7係 1室 1出張所)
19日 城陽市消防本部消防署庁舎新築移転
消防緊急情報システムⅡ型稼働
- 平成5年 3月22日 消防訓練塔竣工
主塔 高さ 16.0m(鉄骨造4階建)
副塔 高さ 9.4m(鉄骨造2階建)
- 平成7年 4月1日 消防本部機構改革実施
(3課 8係 1室 1出張所)
5月1日 幼年消防クラブ発足
- 平成8年 4月1日 高規格救急車配備運用開始
- 平成9年 3月 地域防災無線設置 121基
(基地局1 中継局1 半固定局54
車載用16 携帯局45)
- 平成10年 4月 消防業務管理システム運用開始
総務課 消防職員
消防団員管理システム
予防課 防火対象物台帳
危険物台帳
防火管理者等管理システム
警防課 火災・救急統計
管理システム
携帯電話119番通報システム
(分散受信方式)運用開始



京都府総合防災訓練



消防緊急情報システム稼働



消防訓練塔竣工



高規格救急車

- 平成11年 4月1日 25m級はしご車配備運用開始
- 平成14年 4月1日 青谷出張所高規格救急車運用開始
9月2日 消防緊急情報システム更新
稼動発信地表示システム運用開始
- 平成15年 3月 緊急援助隊用高規格救急車の整備
- 平成16年 4月1日 城陽市消防団条例定員275人に改正
6月6日 女性消防団員結成(部長以下10人)
- 平成17年 1月28日 I P電話119番通報受信システム運用開始
4月1日 城陽市消防署久津川消防分署設置
消防本部機構改革実施
(消防本部(総務課 予防課)
消防署(警防課 久津川消防分署
青谷消防分署))
- 平成18年 2月1日 携帯電話119番通報直接受信運用開始
- 平成23年 4月1日 消防緊急情報システム部分更新
統合型発信地表示システム運用開始
- 平成25年 3月 緊急援助隊用高規格救急車の整備
4月1日 城陽市消防署青谷消防分署新築移転
消防緊急情報システム部分更新
- 平成26年 4月1日 消防救急デジタル無線運用開始
消防署に救急課を新設
城陽市危険物安全協会と
城陽自衛消防隊連絡協議会が統合し
城陽市防火危険物安全協会発足
- 平成27年 10月17日 平成27年度緊急消防援助隊
～18日 近畿ブロック合同訓練実施
(城陽山砂利採取地
陸上自衛隊長池演習場)
(府民スポーツ広場 等)
参加団体25団体
参加消防機関135本部 585名
- 平成29年 7月7日 城陽市職員定数(消防職員)
108名に改正



25m級はしご車



久津川消防分署設置



青谷消防分署新築移転



近畿ブロック合同訓練(総務省消防庁長官・京都府知事視察)

災害史

- 昭和45年 9月18日 集中豪雨で記録的大雨
30分間雨量50mm
寺田東部宅地造成地域より異常出水
- 昭和53年 4月23日 市辺大原で山林火災
31.5㍓焼失 27時間燃焼
- 昭和55年 4月5日 寺田尺後でスーパーマーケット火災
2,057㎡全焼 7時間燃焼
- 昭和57年 8月1日 台風10号による木津川大増水
～4日 西富野上津屋間堤防漏水
湧水13箇所 市内床上 床下浸水9戸
- 昭和58年 8月21日 集中豪雨により
床下浸水76戸
道路冠水16箇所
- 昭和61年 7月21日 集中豪雨により
～22日 市内河川溢水 床上浸水33戸
床下浸水約500戸
田畑冠水 浸水106.7㍓ 他道路冠水
道路河川 林地冠沈崩壊
時間雨量71mm(1:30～2:30)
総雨量321mm
(20日38mm 21日198mm 22日85mm)
- 昭和62年 5月19日 奈島長尾でパチンコ店火災
604㎡焼損
- 平成2年 9月16日 市辺西川原で擁壁崩壊
全壊1戸 一部損壊1戸
梅畑500㎡に被害
- 平成5年 2月8日 寺田市ノ久保で火災
民家全焼2戸 部分焼2戸
- 平成7年 1月17日 阪神・淡路大震災発生
5時46分 市内の被害状況
(公共施設壁部亀裂4件
民家壁部亀裂18戸
ブロック塀亀裂破損等2件)
負傷者2人
救助隊及び救急隊派遣
1月17日～26日まで延べ73人派遣



スーパーマーケット火災(寺田尺後)



集中豪雨(寺田今堀・樋尻地区 古川溢水)



パチンコ店火災(奈島長尾)



阪神・淡路大震災(東灘区活動風景)

5月12日 集中豪雨により
田畑冠水27箇所 道路冠水2箇所

6月17日 富野乾垣内で火災
民家全焼1戸 死者3人

8月30日 集中豪雨により
床下浸水277戸
(寺田樋尻 今堀 垣内後)
(平川野原 西六反)
床上浸水6戸(寺田樋尻 島垣内)
道路冠水11箇所
時間雨量61mm(30日22:00~23:00)
総雨量128mm

平成9年 7月26日 台風9号により
倒木17件 強風による工作物転倒9件
停電430件 十六川法面崩壊6箇所
屋根瓦一部飛散1件(寺田樋尻)

平成10年 9月22日 台風7号により
住居一部破損9件
非住居及び工作物破損4件
倒木23件 塀等倒壊3件
電柱看板倒壊8件
農業用ビニールハウス6棟小破
水稻倒伏50ヘクタールの被害

平成11年 5月14日 平川大將軍で火災
民家全焼2戸 半焼1戸
部分焼等8戸 罹災世帯8世帯26人

平成17年 12月 12月初旬から翌年1月下旬にかけ
建物火災が多発
(全焼4件 半焼3件)
(死者4人 負傷者1人)

平成23年 3月11日 東日本大震災発生
14時46分頃 3月11日~30日までの間、緊急消防援助隊京都府隊(消火部隊)として宮城県本吉郡南三陸町(志津川地区)へ、6隊、消防吏員延べ108人を派遣



阪神・淡路大震災(集結状況)



住宅火災(平川大將軍)



東日本大震災(南三陸町活動風景)



東日本大震災(南三陸町活動風景)

平成23年 9月2日 台風12号により
~4日 住宅のトタン屋根飛散1件
住居の物置破損1件
いちじく畑等の畑約20箇所の被害
市内に避難所9箇所開設
(市職員52人 消防職員51人)
(消防団員34人 計137人にて対応)

平成24年 8月13日 京都府南部豪雨により
~14日 床上浸水53棟 床下浸水600棟
河川溢水 土砂流出 道路陥没
1時間最大雨量73.5mm
(14日4:30~5:30)
総雨量313mm
(13日0:00~14日24:00)

平成25年 7月13日 集中豪雨により
床下浸水18棟 道路冠水6箇所
1時間最大雨量64.5mm
(15:20~16:20)
総雨量82mm

9月15日 台風18号により
~16日 9月16日に京都府、滋賀県、福井県において、全国で初めて大雨特別警報が発表。
床下浸水2棟 道路冠水4箇所
木津川河川敷茶園等浸水
1時間最大雨量25.5mm
(16日3:40~4:40)
総雨量221mm
(15日0:00~16日24:00)

平成28年 4月14日 熊本地震発生
21時26分頃 4月16日~30日までの間、緊急消防援助隊京都府隊(救急隊)として熊本県益城町へ、3隊、消防吏員延べ33人を派遣

平成29年 12月9日 平川広田で工場火災
全焼3戸 半焼1戸 部分焼2戸
ぼや4戸 計2,180㎡焼損
罹災世帯1世帯2名



京都府南部豪雨(今堀第1幼児公園付近)



熊本地震(熊本市活動風景)

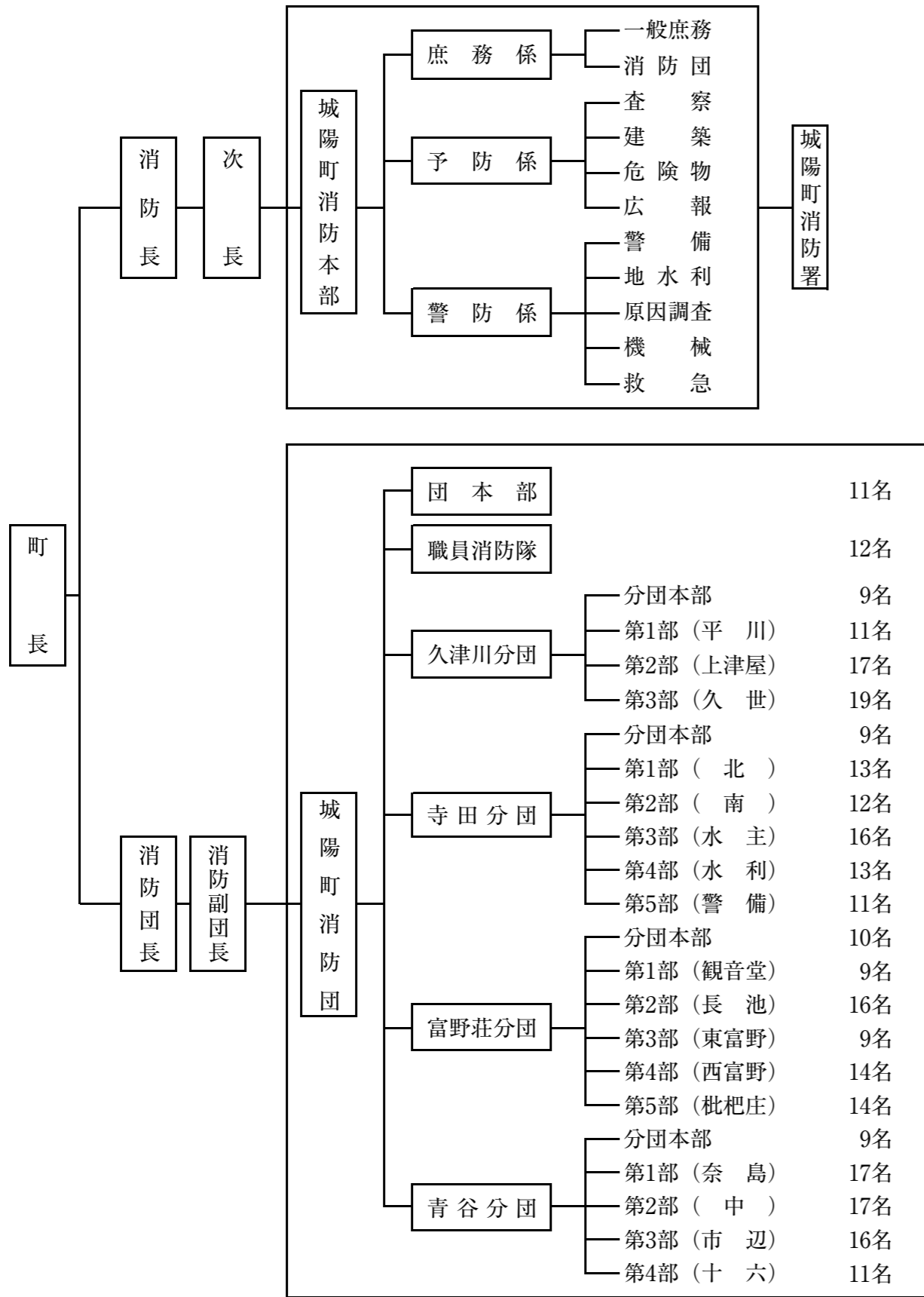


熊本地震(被災状況)



工場火災(平川広田)

組織機構 (昭和44年12月31日現在)



消防職員の状況 (昭和44年12月31日現在)

| 階級 | 消防長 | 消防副長 | 消防補 | 消防士 | 消防副士 | 消防士 | その他員 | 計 |
|----|-----|------|-----|-----|------|-----|------|----|
| 人員 | 1 | 0 | 0 | 5 | 0 | 15 | 0 | 21 |

消防職員の勤続年数 (昭和44年12月31日現在)

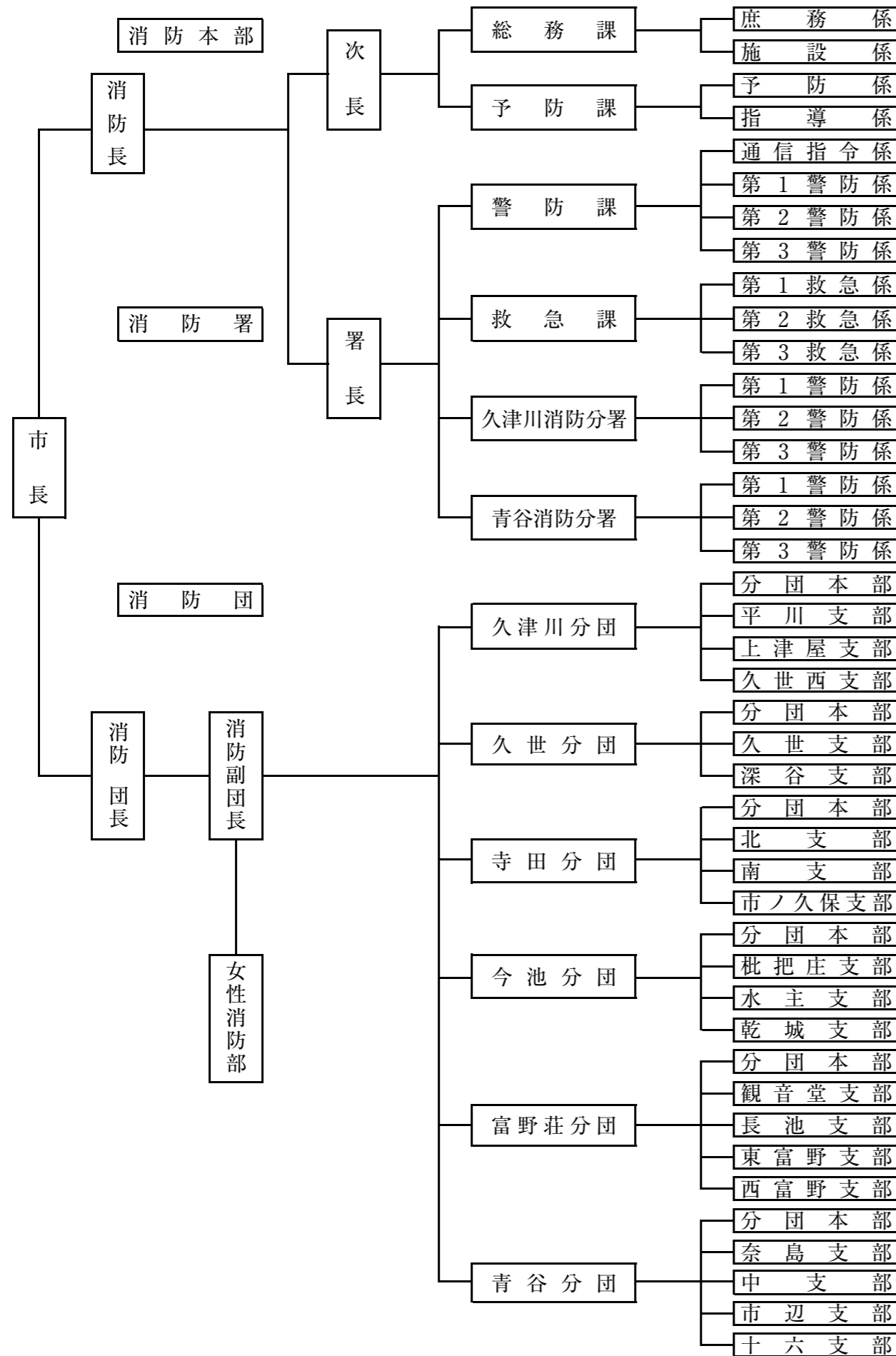
| 階級 | 消防長 | 消防副長 | 消防補 | 消防士 | 消防副士 | 消防士 | その他員 | 計 |
|-------|-----|------|-----|-----|------|-----|------|----|
| 1年未満 | | | | | | 3 | | 3 |
| 1年～2年 | | | | 1 | | 10 | | 11 |
| 2年～3年 | | | | | | | | 0 |
| 3年以上 | 1 | | | 4 | | 2 | | 7 |
| 計 | 1 | 0 | 0 | 5 | 0 | 15 | 0 | 21 |

消防職員の年齢別 (昭和44年12月31日現在)

| 階級 | 消防長 | 消防副長 | 消防補 | 消防士 | 消防副士 | 消防士 | その他員 | 計 |
|---------|-----|------|-----|-----|------|-----|------|----|
| 15歳～20歳 | | | | | | 2 | | 2 |
| 21歳～25歳 | | | | 4 | | 11 | | 15 |
| 26歳～30歳 | | | | | | 2 | | 2 |
| 31歳～35歳 | | | | 1 | | | | 1 |
| 36歳～40歳 | | | | | | | | 0 |
| 41歳～55歳 | | | | | | | | 0 |
| 46歳～50歳 | | | | | | | | 0 |
| 51歳～55歳 | 1 | | | | | | | 1 |
| 計 | 1 | 0 | 0 | 5 | 0 | 15 | 0 | 21 |



組織機構 (平成30年4月1日現在)



消防職員の状況 (平成30年4月1日現在)

| 階級 | 消防司令長 | 消防司令 | 消防司令補 | 消防士 | 消防副士 | 消防士 | その他員 | 計 |
|----|-------|-------|-------|-----|------|-----|------|-------|
| 人員 | 1 | 10(1) | 25 | 23 | 19 | 8 | 7(6) | 93(7) |

※()内は再任用職員を表す。

消防職員の勤続年数 (平成30年4月1日現在)

| 階級 | 消防司令長 | 消防司令 | 消防司令補 | 消防士 | 消防副士 | 消防士 | その他員 | 計 |
|------|-------|-------|-------|-----|------|-----|------|-------|
| 1年未満 | | | | | | 5 | | 5 |
| 1年以上 | | | | | 8 | 3 | | 11 |
| 5年〃 | | | | 13 | 11 | | | 24 |
| 10年〃 | | | 7 | 10 | | | | 17 |
| 15年〃 | | | 8 | | | | | 8 |
| 20年〃 | | | 5 | | | | | 5 |
| 25年〃 | | 6 | 3 | | | | 1 | 10 |
| 30年〃 | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| 35年〃 | 1 | 3(1) | 1 | | | | 6(6) | 11(7) |
| 計 | 1 | 10(1) | 25 | 23 | 19 | 8 | 7(6) | 93(7) |

※()内は再任用職員を表す。

消防職員の年齢別 (平成30年4月1日現在)

| 階級 | 消防司令長 | 消防司令 | 消防司令補 | 消防士 | 消防副士 | 消防士 | その他員 | 計 |
|-------|-------|-------|-------|-----|------|-----|------|-------|
| 20歳未満 | | | | | | 1 | | 1 |
| 20歳以上 | | | | | 3 | 7 | | 10 |
| 25歳〃 | | | | 3 | 16 | | | 19 |
| 30歳〃 | | | | 18 | | | | 18 |
| 35歳〃 | | | 13 | 2 | | | | 15 |
| 40歳〃 | | | 7 | | | | | 7 |
| 45歳〃 | | 4 | 3 | | | | | 7 |
| 50歳〃 | 1 | 6(1) | 2 | | | | 7(6) | 16(7) |
| 計 | 1 | 10(1) | 25 | 23 | 19 | 8 | 7(6) | 93(7) |

※()内は再任用職員を表す。

消防庁舎

旧庁舎



昭和43年4月1日の消防本部発足当初は町役場内に設置していたが、各種災害に対して迅速に対応するための体制強化として、昭和46年3月20日に城陽町消防本部・消防署庁舎を新築、消防長以下33名の消防吏員及びポンプ車3台、救急車1台、広報車1台、バイク6台の配備をもって運用を開始。火災・救急などの災害現場活動体制を整えた。

現庁舎



平成2年4月1日に城陽市の将来像を見据えた消防本部機構改革（3課・7係・1室・1出張所）に伴い、平成2年4月19日に城陽市消防本部・消防署の庁舎を城陽市富野久保田1番地の1に新築移転するとともに、消防緊急情報システムの運用を開始。

久津川消防分署



久津川消防分署は城陽市の北部地域の消防力強化ため、平成17年4月1日に現在の場所に設置され、消防吏員13名、消防車1台、救急車1台、資機材搬送車1台、バイク1台を配備し、運用を開始。

青谷消防分署



青谷消防分署は、城陽市の南部地域の消防力強化ため、昭和53年3月12日に「消防青谷出張所」として設置され、消防吏員11名、消防車1台、救急車1台にて運用を開始。その後、平成17年4月1日の久津川消防分署の開署に伴う機構改革により消防出張所より消防分署へ格上げを行い、平成25年4月5日には庁舎の老朽化及び各種災害への対応能力向上のため、現在の場所に新築移転を行い、消防吏員13名、消防車2台、救急車1台、資機材搬送車1台、バイク1台を配備。

消防車両



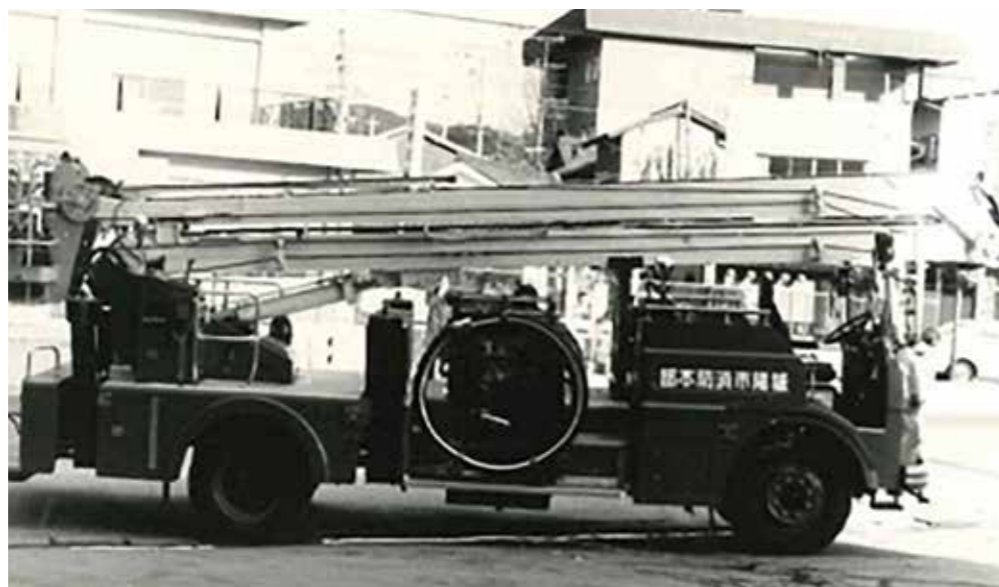
昭和48年10月に日本損害保険協会から寄贈された普通消防自動車（トヨタFJクルーザー）。

なお、同協会は防火対策として昭和27年から年間60台の消防車を全国の各自治体に寄贈しているもので、当時府下では12台目であった。

株式会社吉谷機械製作所が改装を行った消防車。ポンプ性能はA-2級であった。

昭和48年12月に更新の森田式16m屈折はしご付消防ポンプ自動車。

A-2級ポンプを積載。作業台許容荷重250kg。



昭和54年2月に導入した2B型救急車。2ベット積載式となっており、重症傷病者2名搬送も可能としていた。

今と比較すると車内設備はベッド2つ（うち、1つはストレッチャー兼用）酸素ボンベのみで、今とは大きく違った。



平成23年度に導入された救助工作車はウィンチ、大型投光器、小型クレーンを搭載。また、約200種の資機材を積載しており、都市型レスキュー資機材と呼ばれる資機材を豊富に積載することで、大規模・多様化する災害に対応できる車両となっている。

平成27年度に導入された指揮車は、ハイルーフ、ワイドボディのトヨタハイエースシャシに、悪路走破性に優れた4輪駆動方式を備え、総排気量2.7リットル、160馬力のエンジンを搭載した車両である。

車内には、現場指揮に必要な情報を収集・分析するための指揮机に各種通信機器を備え付けており、現場指揮活動に必要な資機材だけでなく、大型テント及び集団災害用資機材等も積載している。

このような最新の装備を備えている指揮車は、複雑多様化する火災現場や救助現場において、災害防御に必要な各種情報を収集・分析し、迅速かつ効率的な現場指揮活動が行える車両となっている。



制服



夏用制服



活動服



救急服



救助服



服は難燃素材で作られており、肩、背中上部には、消防とわかりやすいようにオレンジ色が配色されている。

白や灰色を基調とした清潔感を与える色あいになっている。

各所に補強が施してあり丈夫で動きやすく、災害現場で目立つようにオレンジ色の服装となっている。

防火衣



発足当初の防火衣については、ビニロン、ポリエステル等の繊維にアルミ粉末を混入したゴムをコーティングしたもので、アルミ素材を使うことにより放射熱を反射し、熱の侵入を防ぐ効果を期待したが防火衣というよりは雨合羽的な要素が強かった。スタイルとしてはコート型防火衣にひざカバー付のゴム長靴で、化学変化で黒ずみが生じ反射輝度が落ちるといった欠点があった。

昭和55年度より導入した防火衣については、ビニロン、ポリエステル繊維であったものを外衣にアラミド繊維を使用し、防水のためにアラミド繊維にゴムコーティングをした內衣を設け空気層を持った2層構造とした。

また、視認性を高めるために反射テープの縫着が施された。

平成17年度より導入した防火衣については、国際標準化機構ISO 11613「アプローチA」(欧州法)の要求をクリアしたものである。

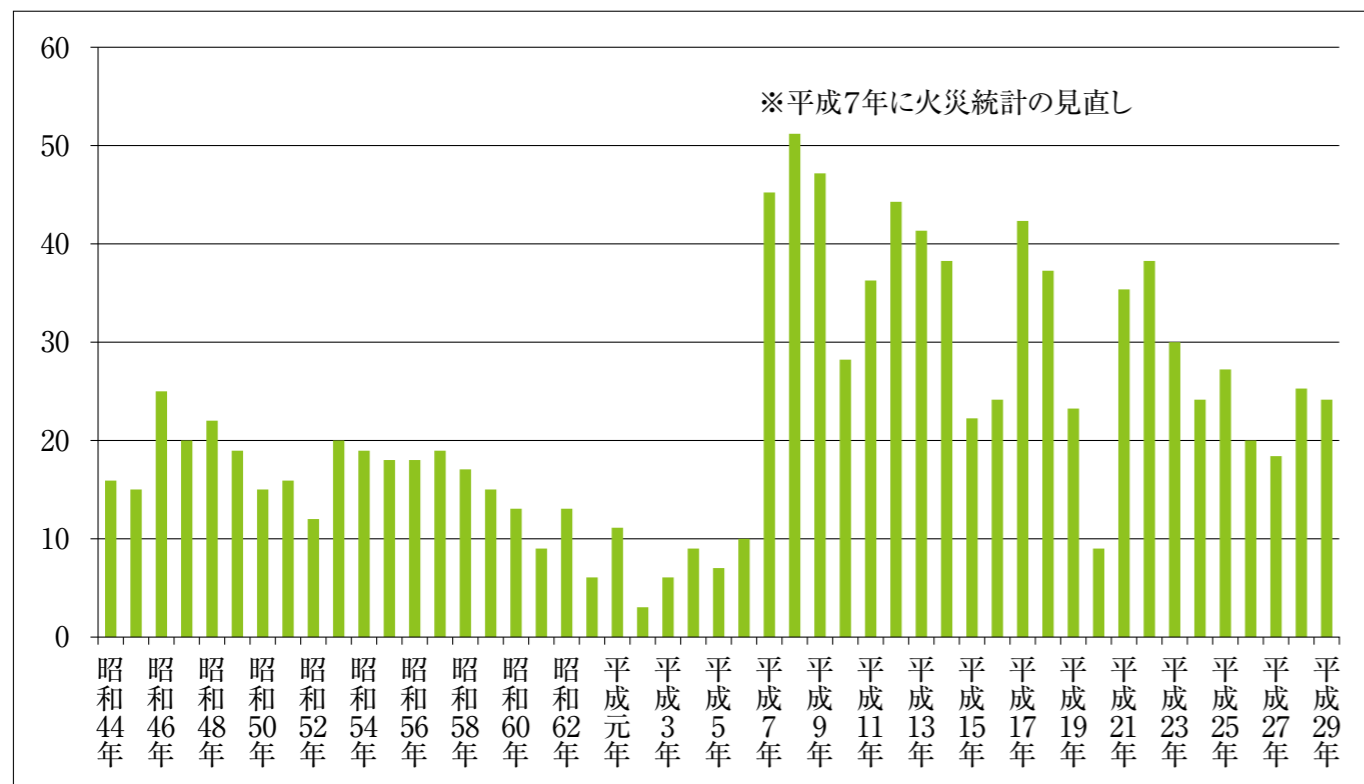
従来のコート式防火衣からISO対応セパレート式(上下式)とし、2層構造から3層構造(外衣、透湿防水層、遮熱層)になったことで、熱防護性レベルが格段に上がった。



平成27年度より導入した防火衣については、国際標準化機構ISO 11613「アプローチA」(欧州法)及び(財)日本消防協会(消防隊員用個人防火装備のあり方について)をクリアしたものである。

また、薬品・ウイルス及び血液・体液等の浸透を防ぐ素材であり、ウイルスバリア性試験においてクラス6レベルを有する構造となっている。

年別火災件数



| 年 | 火災件数 | 年 | 火災件数 | 年 | 火災件数 |
|-------|------|-------|------|-------|------|
| 昭和44年 | 16 | 昭和61年 | 9 | 平成15年 | 22 |
| 昭和45年 | 15 | 昭和62年 | 13 | 平成16年 | 24 |
| 昭和46年 | 25 | 昭和63年 | 6 | 平成17年 | 42 |
| 昭和47年 | 20 | 平成元年 | 11 | 平成18年 | 37 |
| 昭和48年 | 22 | 平成2年 | 3 | 平成19年 | 23 |
| 昭和49年 | 19 | 平成3年 | 6 | 平成20年 | 9 |
| 昭和50年 | 15 | 平成4年 | 9 | 平成21年 | 35 |
| 昭和51年 | 16 | 平成5年 | 7 | 平成22年 | 38 |
| 昭和52年 | 12 | 平成6年 | 10 | 平成23年 | 30 |
| 昭和53年 | 20 | 平成7年 | 45 | 平成24年 | 24 |
| 昭和54年 | 19 | 平成8年 | 51 | 平成25年 | 27 |
| 昭和55年 | 18 | 平成9年 | 47 | 平成26年 | 20 |
| 昭和56年 | 18 | 平成10年 | 28 | 平成27年 | 18 |
| 昭和57年 | 19 | 平成11年 | 36 | 平成28年 | 25 |
| 昭和58年 | 17 | 平成12年 | 44 | 平成29年 | 24 |
| 昭和59年 | 15 | 平成13年 | 41 | | |
| 昭和60年 | 13 | 平成14年 | 38 | | |

単位：件

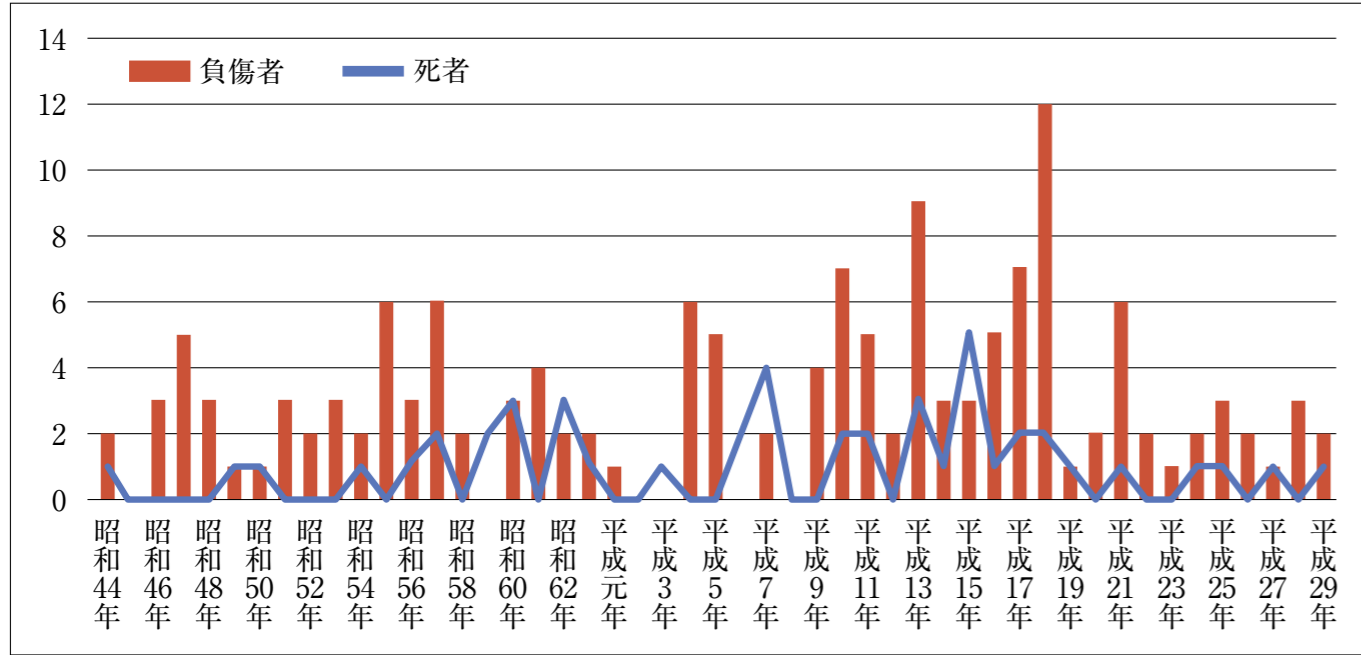
火災種別ごとの年別火災件数

| 年 | 火災件数 | | | | | 年 | 火災件数 | | | | |
|-------|------|----|----|-----|----|-------|------|----|----|-----|----|
| | 建物 | 林野 | 車両 | その他 | 計 | | 建物 | 林野 | 車両 | その他 | 計 |
| 昭和44年 | 10 | 4 | | 2 | 16 | 平成6年 | 8 | 1 | | 1 | 10 |
| 昭和45年 | 8 | 4 | 1 | 2 | 15 | 平成7年 | 9 | | 3 | 33 | 45 |
| 昭和46年 | 16 | 2 | 3 | 4 | 25 | 平成8年 | 20 | 2 | 7 | 22 | 51 |
| 昭和47年 | 8 | 4 | | 8 | 20 | 平成9年 | 22 | 2 | 11 | 12 | 47 |
| 昭和48年 | 10 | 1 | | 11 | 22 | 平成10年 | 12 | | 6 | 10 | 28 |
| 昭和49年 | 6 | 3 | | 10 | 19 | 平成11年 | 18 | | 3 | 15 | 36 |
| 昭和50年 | 8 | 1 | | 6 | 15 | 平成12年 | 21 | | 5 | 18 | 44 |
| 昭和51年 | 14 | | 1 | 1 | 16 | 平成13年 | 17 | | 6 | 18 | 41 |
| 昭和52年 | 9 | | 2 | 1 | 12 | 平成14年 | 17 | 1 | 6 | 14 | 38 |
| 昭和53年 | 11 | 1 | 1 | 7 | 20 | 平成15年 | 15 | | 2 | 5 | 22 |
| 昭和54年 | 15 | | | 4 | 19 | 平成16年 | 18 | | 2 | 4 | 24 |
| 昭和55年 | 12 | 2 | 1 | 3 | 18 | 平成17年 | 22 | 2 | 4 | 14 | 42 |
| 昭和56年 | 12 | | 1 | 5 | 18 | 平成18年 | 22 | | 8 | 7 | 37 |
| 昭和57年 | 12 | | 3 | 4 | 19 | 平成19年 | 8 | | 1 | 14 | 23 |
| 昭和58年 | 8 | 1 | 4 | 4 | 17 | 平成20年 | 5 | | 1 | 3 | 9 |
| 昭和59年 | 13 | | | 2 | 15 | 平成21年 | 16 | | 4 | 15 | 35 |
| 昭和60年 | 10 | | 1 | 2 | 13 | 平成22年 | 18 | 2 | 4 | 14 | 38 |
| 昭和61年 | 7 | | 1 | 1 | 9 | 平成23年 | 14 | 1 | | 15 | 30 |
| 昭和62年 | 9 | | 3 | 1 | 13 | 平成24年 | 8 | | 1 | 15 | 24 |
| 昭和63年 | 3 | | 2 | 1 | 6 | 平成25年 | 9 | 2 | 1 | 15 | 27 |
| 平成元年 | 8 | | 3 | | 11 | 平成26年 | 11 | | 2 | 7 | 20 |
| 平成2年 | 2 | | 1 | | 3 | 平成27年 | 5 | 1 | 2 | 10 | 18 |
| 平成3年 | 6 | | | | 6 | 平成28年 | 7 | 1 | 3 | 14 | 25 |
| 平成4年 | 9 | | | | 9 | 平成29年 | 13 | 1 | 4 | 6 | 24 |
| 平成5年 | 7 | | | | 7 | | | | | | |

単位：件



火災による年別死者・負傷者数



| 年 | 死者 | 負傷者 | 年 | 死者 | 負傷者 | 年 | 死者 | 負傷者 |
|-------|----|-----|-------|----|-----|-------|----|-----|
| 昭和44年 | 1 | 2 | 昭和61年 | | 4 | 平成15年 | 5 | 3 |
| 昭和45年 | | | 昭和62年 | 3 | 2 | 平成16年 | 1 | 5 |
| 昭和46年 | | 3 | 昭和63年 | 1 | 2 | 平成17年 | 2 | 7 |
| 昭和47年 | | 5 | 平成元年 | | 1 | 平成18年 | 2 | 12 |
| 昭和48年 | | 3 | 平成2年 | | | 平成19年 | 1 | 1 |
| 昭和49年 | 1 | 1 | 平成3年 | 1 | | 平成20年 | | 2 |
| 昭和50年 | 1 | 1 | 平成4年 | | 6 | 平成21年 | 1 | 6 |
| 昭和51年 | | 3 | 平成5年 | | 5 | 平成22年 | | 2 |
| 昭和52年 | | 2 | 平成6年 | 2 | | 平成23年 | | 1 |
| 昭和53年 | | 3 | 平成7年 | 4 | 2 | 平成24年 | 1 | 2 |
| 昭和54年 | 1 | 2 | 平成8年 | | | 平成25年 | 1 | 3 |
| 昭和55年 | | 6 | 平成9年 | | 4 | 平成26年 | | 2 |
| 昭和56年 | 1 | 3 | 平成10年 | 2 | 7 | 平成27年 | 1 | 1 |
| 昭和57年 | 2 | 6 | 平成11年 | 2 | 5 | 平成28年 | | 3 |
| 昭和58年 | | 2 | 平成12年 | | 2 | 平成29年 | 1 | 2 |
| 昭和59年 | 2 | | 平成13年 | 3 | 9 | 単位：人 | | |
| 昭和60年 | 3 | 3 | 平成14年 | 1 | 3 | | | |

火災発生状況一覧表

| 年 | 世帯数 | 人口 | 火災件数 | | | | | 焼損棟数 | | | | 焼損面積 | | | 人的被害 | | り災状況 | | |
|----------------|--------|--------|------|----|----|-----|----|------|----|-----|----|------|----------------------|----------------------|--------|----|------|-----|----|
| | | | 建物 | 林野 | 車両 | その他 | 計 | 全焼 | 半焼 | 部分焼 | ぼや | 計 | 床面積(m ²) | 表面積(m ²) | 林野(a) | 死者 | | 負傷者 | |
| 昭和44年 1969年 | 8,266 | 31,065 | 10 | 4 | 0 | 2 | 16 | 4 | 0 | 6 | | 10 | 445 | | 137.00 | 1 | 2 | 7 | 26 |
| 昭和45年 1970年 | 9,820 | 35,921 | 8 | 4 | 1 | 2 | 15 | 3 | 0 | 5 | | 8 | 156 | | 59.50 | 0 | 0 | 4 | 13 |
| 昭和46年 1971年 | 11,217 | 41,967 | 16 | 2 | 3 | 4 | 25 | 5 | 1 | 10 | | 16 | 305 | | 37.50 | 0 | 3 | 7 | 26 |
| 昭和47年 1972年 | 13,304 | 48,680 | 8 | 4 | 0 | 8 | 20 | 3 | 1 | 4 | | 8 | 792 | | 25.50 | 0 | 5 | 7 | 17 |
| 昭和48年 1973年 | 14,655 | 53,085 | 10 | 1 | 0 | 11 | 22 | 2 | 1 | 7 | | 10 | 141 | | 15.00 | 0 | 3 | 6 | 18 |
| 昭和49年 1974年 | 15,662 | 56,617 | 6 | 3 | 0 | 10 | 19 | 2 | 0 | 4 | | 6 | 223 | | 102.50 | 1 | 1 | 4 | 7 |
| 昭和50年 1975年 | 16,486 | 59,661 | 8 | 1 | 0 | 6 | 15 | 4 | 1 | 5 | | 10 | 288 | | 5.20 | 1 | 1 | 7 | 31 |
| 昭和51年 1976年 | 17,822 | 64,094 | 14 | 0 | 1 | 1 | 16 | 6 | 1 | 9 | | 16 | 538 | | 0.00 | 0 | 3 | 13 | 49 |
| 昭和52年 1977年 | 18,883 | 67,636 | 9 | 0 | 2 | 1 | 12 | 3 | 2 | 4 | | 9 | 780 | | 0.00 | 0 | 2 | 8 | 15 |
| 昭和53年 1978年 | 19,795 | 70,940 | 11 | 1 | 1 | 7 | 20 | 0 | 2 | 10 | | 12 | 97 | | 3.15 | 0 | 3 | 12 | 36 |
| 昭和54年 1979年 | 20,579 | 73,723 | 15 | 0 | 0 | 4 | 19 | 4 | 1 | 10 | | 15 | 904 | | 0.00 | 1 | 2 | 5 | 11 |
| 昭和55年 1980年 | 21,092 | 74,608 | 12 | 2 | 1 | 3 | 18 | 1 | 1 | 10 | | 12 | 2,237 | | 17.00 | 0 | 6 | 11 | 47 |
| 昭和56年 1981年 | 21,615 | 76,229 | 12 | 0 | 1 | 5 | 18 | 1 | 0 | 13 | | 14 | 111 | | 0.00 | 1 | 3 | 12 | 43 |
| 昭和57年 1982年 | 22,308 | 78,223 | 12 | 0 | 3 | 4 | 19 | 4 | 3 | 13 | | 20 | 922 | | 0.00 | 2 | 6 | 16 | 69 |
| 昭和58年 1983年 | 22,789 | 79,903 | 8 | 1 | 4 | 4 | 17 | 2 | 1 | 9 | | 12 | 614 | | 25.00 | 0 | 2 | 8 | 42 |
| 昭和59年 1984年 | 23,277 | 81,233 | 13 | 0 | 0 | 2 | 15 | 9 | 4 | 12 | | 25 | 1,276 | | 0.00 | 2 | 0 | 29 | 70 |
| 昭和60年 1985年 | 23,364 | 82,092 | 10 | 0 | 1 | 2 | 13 | 5 | 5 | 5 | | 15 | 674 | | 0.00 | 3 | 3 | 12 | 36 |
| 昭和61年 1986年 | 23,801 | 82,938 | 7 | 0 | 1 | 1 | 9 | 7 | 4 | 4 | | 15 | 868 | | 0.00 | 0 | 4 | 15 | 45 |
| 昭和62年 1987年 | 24,214 | 83,637 | 9 | 0 | 3 | 1 | 13 | 7 | 0 | 10 | | 17 | 1,103 | | 0.00 | 3 | 2 | 11 | 35 |
| 昭和63年 1988年 | 24,780 | 84,733 | 3 | 0 | 2 | 1 | 6 | 1 | 1 | 3 | | 5 | 192 | | 0.00 | 1 | 2 | 9 | 35 |

※網かけ箇所は統計区分なし

| 年 | 世帯数 | 人口 | 火災件数 | | | | | 焼損棟数 | | | | | 焼損面積 | | | 人的被害 | | | り災状況 | |
|----------------|--------|--------|------|----|----|-----|----|------|----|-----|----|----|--------------------------|--------------------------|-----------|------|-----|----|------|--|
| | | | 建物 | 林野 | 車両 | その他 | 計 | 全焼 | 半焼 | 部分焼 | ぼや | 計 | 床面積 (m ²) | 表面積 (m ²) | 林野 (a) | 死者 | 負傷者 | 世帯 | 人員 | |
| 平成元年 1989年 | 25,127 | 85,180 | 8 | 0 | 3 | 0 | 11 | 6 | 2 | 2 | | 10 | 676 | | 0.00 | 0 | 1 | 4 | 12 | |
| 平成2年 1990年 | 25,316 | 84,698 | 2 | 0 | 1 | 0 | 3 | 2 | 0 | 0 | | 2 | 92 | | 0.00 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 平成3年 1991年 | 25,576 | 84,540 | 6 | 0 | 0 | 0 | 6 | 3 | 1 | 5 | | 9 | 295 | | 0.00 | 1 | 0 | 5 | 15 | |
| 平成4年 1992年 | 25,930 | 84,731 | 9 | 0 | 0 | 0 | 9 | 3 | 4 | 9 | | 16 | 928 | | 0.00 | 0 | 6 | 17 | 47 | |
| 平成5年 1993年 | 26,391 | 85,080 | 7 | 0 | 0 | 0 | 7 | 3 | 1 | 6 | | 10 | 532 | | 0.00 | 0 | 5 | 11 | 44 | |
| 平成6年 1994年 | 26,733 | 85,248 | 8 | 1 | 0 | 1 | 10 | 5 | 1 | 9 | | 15 | 506 | | 15.00 | 2 | 0 | 16 | 44 | |
| 平成7年 1995年 | 27,065 | 85,454 | 9 | 0 | 3 | 33 | 45 | 3 | 0 | 5 | 3 | 11 | 226 | | 1.00 | 4 | 2 | 6 | 13 | |
| 平成8年 1996年 | 27,440 | 85,484 | 20 | 2 | 7 | 22 | 51 | 3 | 3 | 8 | 13 | 27 | 592 | 117 | 0.03 | 0 | 0 | 15 | 47 | |
| 平成9年 1997年 | 27,793 | 85,277 | 22 | 2 | 11 | 12 | 47 | 7 | 6 | 4 | 10 | 27 | 1,655 | 84 | 4.00 | 0 | 4 | 13 | 37 | |
| 平成10年 1998年 | 28,237 | 85,154 | 12 | 0 | 6 | 10 | 28 | 4 | 0 | 3 | 7 | 14 | 243 | 18 | 0.00 | 2 | 7 | 8 | 25 | |
| 平成11年 1999年 | 28,592 | 84,876 | 18 | 0 | 3 | 15 | 36 | 3 | 1 | 8 | 16 | 28 | 482 | 7 | 0.00 | 2 | 5 | 19 | 61 | |
| 平成12年 2000年 | 28,379 | 84,350 | 21 | 0 | 5 | 18 | 44 | 1 | 1 | 3 | 18 | 23 | 153 | 4 | 0.00 | 0 | 2 | 9 | 26 | |
| 平成13年 2001年 | 28,854 | 83,947 | 17 | 0 | 6 | 18 | 41 | 5 | 0 | 5 | 11 | 21 | 472 | 13 | 0.00 | 3 | 9 | 16 | 59 | |
| 平成14年 2002年 | 29,106 | 83,389 | 17 | 1 | 6 | 14 | 38 | 6 | 4 | 5 | 11 | 26 | 866 | 29 | 0.25 | 1 | 3 | 13 | 40 | |
| 平成15年 2003年 | 29,533 | 83,056 | 15 | 0 | 2 | 5 | 22 | 1 | 1 | 5 | 8 | 15 | 148 | 2 | 0.00 | 5 | 3 | 13 | 32 | |
| 平成16年 2004年 | 29,752 | 82,340 | 18 | 0 | 2 | 4 | 24 | 5 | 1 | 5 | 11 | 22 | 622 | 47 | 0.00 | 1 | 5 | 8 | 19 | |
| 平成17年 2005年 | 29,129 | 81,481 | 22 | 2 | 4 | 14 | 42 | 4 | 3 | 3 | 19 | 29 | 597 | 3 | 8.00 | 2 | 7 | 20 | 47 | |
| 平成18年 2006年 | 29,704 | 81,101 | 22 | 0 | 8 | 7 | 37 | 2 | 7 | 9 | 17 | 35 | 446 | 63 | 0.00 | 2 | 12 | 31 | 70 | |
| 平成19年 2007年 | 30,107 | 80,795 | 8 | 0 | 1 | 14 | 23 | 1 | 1 | 0 | 6 | 8 | 76 | 2 | 0.00 | 1 | 1 | 6 | 17 | |
| 平成20年 2008年 | 30,509 | 80,494 | 5 | 0 | 1 | 3 | 9 | 0 | 0 | 4 | 1 | 5 | 12 | 1 | 0.00 | 0 | 2 | 6 | 18 | |

※網かけ箇所は統計区分なし

| 年 | 世帯数 | 人口 | 火災件数 | | | | | 焼損棟数 | | | | | 焼損面積 | | | 人的被害 | | | り災状況 | |
|----------------|--------|--------|------|----|----|-----|----|------|----|-----|----|----|--------------------------|--------------------------|-----------|------|-----|----|------|--|
| | | | 建物 | 林野 | 車両 | その他 | 計 | 全焼 | 半焼 | 部分焼 | ぼや | 計 | 床面積 (m ²) | 表面積 (m ²) | 林野 (a) | 死者 | 負傷者 | 世帯 | 人員 | |
| 平成21年 2009年 | 30,863 | 80,158 | 16 | 0 | 4 | 15 | 35 | 4 | 4 | 5 | 9 | 22 | 279 | 16 | 0.00 | 1 | 6 | 15 | 28 | |
| 平成22年 2010年 | 31,010 | 79,763 | 18 | 2 | 4 | 14 | 38 | 5 | 1 | 5 | 4 | 15 | 312 | 27 | 0.00 | 0 | 2 | 11 | 30 | |
| 平成23年 2011年 | 30,135 | 79,307 | 14 | 1 | 0 | 15 | 30 | 6 | 0 | 5 | 6 | 17 | 239 | 35 | 0.00 | 0 | 1 | 7 | 17 | |
| 平成24年 2012年 | 30,166 | 78,625 | 8 | 0 | 1 | 15 | 24 | 1 | 0 | 4 | 5 | 10 | 67 | 5 | 0.00 | 1 | 2 | 4 | 6 | |
| 平成25年 2013年 | 30,403 | 78,313 | 9 | 2 | 1 | 15 | 27 | 0 | 1 | 3 | 5 | 9 | 33 | 18 | 13.00 | 1 | 3 | 3 | 9 | |
| 平成26年 2014年 | 30,538 | 77,702 | 11 | 0 | 2 | 7 | 20 | 4 | 0 | 8 | 3 | 15 | 323 | 90 | 4.00 | 0 | 2 | 10 | 25 | |
| 平成27年 2015年 | 29,852 | 76,828 | 5 | 1 | 2 | 10 | 18 | 0 | 0 | 2 | 3 | 5 | 26 | 0 | 1.00 | 1 | 1 | 4 | 4 | |
| 平成28年 2016年 | 29,951 | 76,198 | 7 | 1 | 3 | 14 | 25 | 4 | 0 | 1 | 6 | 11 | 127 | 34 | 0.00 | 0 | 3 | 2 | 7 | |
| 平成29年 2017年 | 29,989 | 75,612 | 13 | 1 | 4 | 6 | 24 | 7 | 1 | 5 | 15 | 28 | 2,500 | 39 | 48.00 | 1 | 2 | 10 | 26 | |

| 年 | 世帯数 | 人口 | 火災件数 | | | | | 焼損棟数 | 焼損面積 | | 人的被害 | | | り災状況 | |
|-----------------|--------|--------|------|-----|-----|------|------|------|--------------------------|-----------|------|-----|------|------|--|
| | | | 建物 | 林野 | 車両 | その他 | 計 | | 床面積 (m ²) | 林野 (a) | 死者 | 負傷者 | 世帯 | 人員 | |
| 昭和44年～53年 平均 | 14,591 | 52,967 | 10.0 | 2.0 | 0.8 | 5.2 | 18.0 | 10.5 | 376 | 38.54 | 0.3 | 2.3 | 7.5 | 23.8 | |
| 昭和54年～63年 平均 | 22,782 | 79,732 | 10.1 | 0.3 | 1.6 | 2.7 | 14.7 | 15.0 | 890 | 4.20 | 1.3 | 3.0 | 12.8 | 43.3 | |
| 平成元年～10年 平均 | 26,561 | 85,085 | 10.3 | 0.5 | 3.1 | 7.8 | 21.7 | 14.1 | 575 | 2.00 | 0.9 | 2.5 | 9.5 | 28.4 | |
| 平成11年～20年 平均 | 29,367 | 82,583 | 16.3 | 0.3 | 3.8 | 11.2 | 31.6 | 21.2 | 387 | 0.83 | 1.7 | 4.9 | 14.1 | 38.9 | |
| 平成21年～29年 平均 | 30,323 | 78,056 | 11.2 | 0.9 | 2.3 | 12.3 | 26.8 | 14.7 | 434 | 7.33 | 0.6 | 2.4 | 7.3 | 16.9 | |
| 平均 | 24,610 | 75,636 | 11.6 | 0.8 | 2.3 | 7.8 | 22.5 | 15.1 | 535 | 10.65 | 1.0 | 3.0 | 10.3 | 30.5 | |



年別救急出動件数(昭和44年4月1日救急業務開始・昭和44年3月までは宇治市消防署からの出動)

| | 救急件数 | 搬送人員 | 1日平均件数 | 1日最多件数 | 増減(件) | 増減(人) |
|-------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|
| 昭和44年 | 312 | 310 | 0.9 | | | |
| 昭和45年 | 487 | 500 | 1.3 | | 175 | 190 |
| 昭和46年 | 662 | 643 | 1.8 | | 175 | 143 |
| 昭和47年 | 814 | 785 | 2.2 | | 152 | 142 |
| 昭和48年 | 941 | 905 | 2.6 | | 127 | 120 |
| 昭和49年 | 993 | 966 | 2.7 | | 52 | 61 |
| 昭和50年 | 1,124 | 1,064 | 3.1 | | 131 | 98 |
| 昭和51年 | 1,174 | 1,143 | 3.2 | | 50 | 79 |
| 昭和52年 | 1,253 | 1,233 | 3.4 | | 79 | 90 |
| 昭和53年 | 1,237 | 1,215 | 3.4 | | △16 | △18 |
| 昭和54年 | 1,294 | 1,277 | 3.6 | | 57 | 62 |
| 昭和55年 | 1,196 | 1,168 | 3.3 | | △98 | △109 |
| 昭和56年 | 1,221 | 1,192 | 3.3 | | 25 | 24 |
| 昭和57年 | 1,167 | 1,134 | 3.2 | | △54 | △58 |
| 昭和58年 | 1,271 | 1,249 | 3.5 | | 104 | 115 |
| 昭和59年 | 1,274 | 1,259 | 3.5 | | 3 | 10 |
| 昭和60年 | 1,227 | 1,229 | 3.4 | | △47 | △30 |
| 昭和61年 | 1,227 | 1,254 | 3.4 | | 0 | 25 |
| 昭和62年 | 1,375 | 1,336 | 3.8 | | 148 | 82 |
| 昭和63年 | 1,473 | 1,461 | 4.0 | | 98 | 125 |
| 平成元年 | 1,477 | 1,473 | 4.0 | 10 | 4 | 12 |
| 平成2年 | 1,603 | 1,616 | 4.4 | 13 | 126 | 143 |
| 平成3年 | 1,564 | 1,555 | 4.3 | 12 | △39 | △61 |
| 平成4年 | 1,570 | 1,564 | 4.3 | 14 | 6 | 9 |
| 平成5年 | 1,602 | 1,639 | 4.4 | 11 | 32 | 75 |
| 平成6年 | 1,597 | 1,578 | 4.4 | 13 | △5 | △61 |
| 平成7年 | 1,855 | 1,869 | 5.1 | 13 | 258 | 291 |

※網かけ箇所は統計なし

| | 救急件数 | 搬送人員 | 1日平均件数 | 1日最多件数 | 増減(件) | 増減(人) |
|-------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|
| 平成8年 | 1,823 | 1,829 | 5.0 | 14 | △32 | △40 |
| 平成9年 | 1,931 | 1,918 | 5.3 | 12 | 108 | 89 |
| 平成10年 | 2,041 | 2,016 | 5.6 | 12 | 110 | 98 |
| 平成11年 | 2,105 | 2,121 | 5.8 | 14 | 64 | 105 |
| 平成12年 | 2,259 | 2,265 | 6.2 | 17 | 154 | 144 |
| 平成13年 | 2,322 | 2,306 | 6.4 | 15 | 63 | 41 |
| 平成14年 | 2,383 | 2,340 | 6.5 | 15 | 61 | 34 |
| 平成15年 | 2,595 | 2,546 | 7.1 | 16 | 212 | 206 |
| 平成16年 | 2,772 | 2,724 | 7.6 | 16 | 177 | 178 |
| 平成17年 | 2,965 | 2,889 | 8.1 | 24 | 193 | 165 |
| 平成18年 | 2,837 | 2,726 | 7.8 | 16 | △128 | △163 |
| 平成19年 | 2,944 | 2,849 | 8.1 | 18 | 107 | 123 |
| 平成20年 | 2,809 | 2,717 | 7.7 | 17 | △135 | △132 |
| 平成21年 | 2,878 | 2,769 | 7.9 | 15 | 69 | 52 |
| 平成22年 | 3,065 | 2,920 | 8.4 | 17 | 187 | 151 |
| 平成23年 | 3,273 | 3,166 | 9.0 | 19 | 208 | 246 |
| 平成24年 | 3,431 | 3,321 | 9.4 | 17 | 158 | 155 |
| 平成25年 | 3,467 | 3,339 | 9.5 | 20 | 36 | 18 |
| 平成26年 | 3,586 | 3,455 | 9.8 | 18 | 119 | 116 |
| 平成27年 | 3,514 | 3,410 | 9.6 | 19 | △72 | △45 |
| 平成28年 | 3,653 | 3,533 | 10 | 20 | 139 | 123 |
| 平成29年 | 3,751 | 3,606 | 10.3 | 21 | 98 | 73 |



事故種別ごとの年別救急件数

| 年 | 火災 | 自然災害 | 水難事故 | 交通事故 | 労働災害 | 運動競技 | 一般負傷 | 加害 | 自損行為 | 急病 | その他 | 計 |
|-------|----|------|------|------|------|------|------|----|------|-------|-----|-------|
| 昭和44年 | | | | 127 | | | 36 | | | 127 | 22 | 312 |
| 昭和45年 | | | | 118 | 22 | | 108 | | 6 | 226 | 7 | 487 |
| 昭和46年 | 1 | | | 143 | 40 | 3 | 116 | 4 | 7 | 338 | 10 | 662 |
| 昭和47年 | 1 | | | 154 | 25 | 3 | 163 | 4 | 11 | 436 | 17 | 814 |
| 昭和48年 | 3 | | | 164 | 29 | 5 | 196 | 3 | 17 | 509 | 15 | 941 |
| 昭和49年 | | | | 185 | 24 | 6 | 212 | 10 | 9 | 527 | 20 | 993 |
| 昭和50年 | 2 | | | 202 | 28 | 12 | 206 | 15 | 20 | 588 | 51 | 1,124 |
| 昭和51年 | 5 | | 1 | 212 | 29 | 10 | 216 | 16 | 15 | 577 | 93 | 1,174 |
| 昭和52年 | 1 | | | 249 | 49 | 18 | 226 | 12 | 20 | 620 | 58 | 1,253 |
| 昭和53年 | 1 | | | 282 | 43 | 17 | 222 | 19 | 13 | 549 | 91 | 1,237 |
| 昭和54年 | 6 | 1 | | 277 | 36 | 11 | 223 | 14 | 12 | 613 | 101 | 1,294 |
| 昭和55年 | 3 | 2 | | 266 | 27 | 21 | 193 | 14 | 14 | 570 | 86 | 1,196 |
| 昭和56年 | 2 | | | 272 | 41 | 5 | 186 | 16 | 18 | 599 | 82 | 1,221 |
| 昭和57年 | 4 | | 1 | 317 | 27 | 10 | 163 | 25 | 11 | 555 | 54 | 1,167 |
| 昭和58年 | 3 | | 2 | 327 | 23 | 12 | 179 | 20 | 15 | 613 | 77 | 1,271 |
| 昭和59年 | 2 | | 1 | 358 | 22 | 20 | 153 | 18 | 21 | 609 | 70 | 1,274 |
| 昭和60年 | 4 | | | 372 | 28 | 17 | 168 | 8 | 12 | 554 | 64 | 1,227 |
| 昭和61年 | 4 | | 1 | 403 | 23 | 19 | 164 | 12 | 14 | 528 | 59 | 1,227 |
| 昭和62年 | 4 | | | 397 | 36 | 23 | 170 | 10 | 12 | 662 | 61 | 1,375 |
| 昭和63年 | 1 | | 1 | 444 | 33 | 23 | 156 | 11 | 14 | 728 | 62 | 1,473 |
| 平成元年 | 1 | | | 480 | 26 | 18 | 175 | 12 | 15 | 682 | 68 | 1,477 |
| 平成2年 | | | 1 | 489 | 26 | 8 | 186 | 7 | 15 | 803 | 68 | 1,603 |
| 平成3年 | 2 | | | 462 | 31 | 12 | 181 | 11 | 10 | 788 | 67 | 1,564 |
| 平成4年 | 4 | | | 422 | 28 | 24 | 188 | 18 | 9 | 832 | 45 | 1,570 |
| 平成5年 | 4 | | 1 | 454 | 18 | 26 | 186 | 9 | 13 | 834 | 57 | 1,602 |
| 平成6年 | 2 | | | 411 | 28 | 20 | 202 | 21 | 13 | 820 | 80 | 1,597 |
| 平成7年 | 3 | 1 | 1 | 511 | 17 | 27 | 218 | 13 | 11 | 941 | 112 | 1,855 |
| 平成8年 | | | | 428 | 32 | 17 | 224 | 26 | 20 | 972 | 104 | 1,823 |
| 平成9年 | 3 | | | 430 | 17 | 19 | 248 | 20 | 18 | 1,043 | 133 | 1,931 |
| 平成10年 | 6 | 1 | 1 | 455 | 23 | 20 | 269 | 23 | 27 | 1,079 | 137 | 2,041 |
| 平成11年 | 3 | | 1 | 458 | 23 | 17 | 247 | 24 | 31 | 1,152 | 149 | 2,105 |
| 平成12年 | 1 | | | 462 | 30 | 26 | 293 | 22 | 32 | 1,225 | 168 | 2,259 |
| 平成13年 | 7 | | | 394 | 25 | 23 | 312 | 19 | 33 | 1,358 | 151 | 2,322 |
| 平成14年 | 3 | | | 406 | 31 | 23 | 337 | 20 | 31 | 1,373 | 159 | 2,383 |
| 平成15年 | 5 | | 1 | 431 | 28 | 16 | 369 | 20 | 33 | 1,522 | 170 | 2,595 |
| 平成16年 | 5 | | | 427 | 34 | 28 | 353 | 15 | 43 | 1,667 | 200 | 2,772 |
| 平成17年 | 5 | | | 408 | 23 | 34 | 440 | 22 | 37 | 1,832 | 164 | 2,965 |
| 平成18年 | 8 | 2 | | 389 | 28 | 32 | 414 | 32 | 35 | 1,749 | 148 | 2,837 |
| 平成19年 | | | | 412 | 26 | 31 | 395 | 14 | 43 | 1,860 | 163 | 2,944 |
| 平成20年 | 1 | | | 361 | 33 | 43 | 419 | 24 | 36 | 1,763 | 129 | 2,809 |
| 平成21年 | 5 | | | 375 | 25 | 27 | 427 | 16 | 34 | 1,821 | 148 | 2,878 |
| 平成22年 | 2 | | | 329 | 27 | 36 | 423 | 17 | 34 | 2,063 | 134 | 3,065 |
| 平成23年 | 1 | | | 353 | 37 | 36 | 461 | 15 | 38 | 2,186 | 146 | 3,273 |
| 平成24年 | 3 | | 1 | 350 | 23 | 29 | 550 | 23 | 41 | 2,283 | 128 | 3,431 |
| 平成25年 | 3 | | 1 | 353 | 36 | 37 | 507 | 22 | 32 | 2,333 | 143 | 3,467 |
| 平成26年 | 1 | | 2 | 337 | 33 | 30 | 499 | 18 | 34 | 2,491 | 141 | 3,586 |
| 平成27年 | 1 | | 1 | 344 | 26 | 37 | 538 | 9 | 30 | 2,388 | 140 | 3,514 |
| 平成28年 | 3 | | | 345 | 35 | 38 | 490 | 8 | 28 | 2,496 | 210 | 3,653 |
| 平成29年 | 1 | | | 310 | 46 | 53 | 541 | 8 | 20 | 2,599 | 173 | 3,751 |

傷病程度別ごとの年別搬送人員

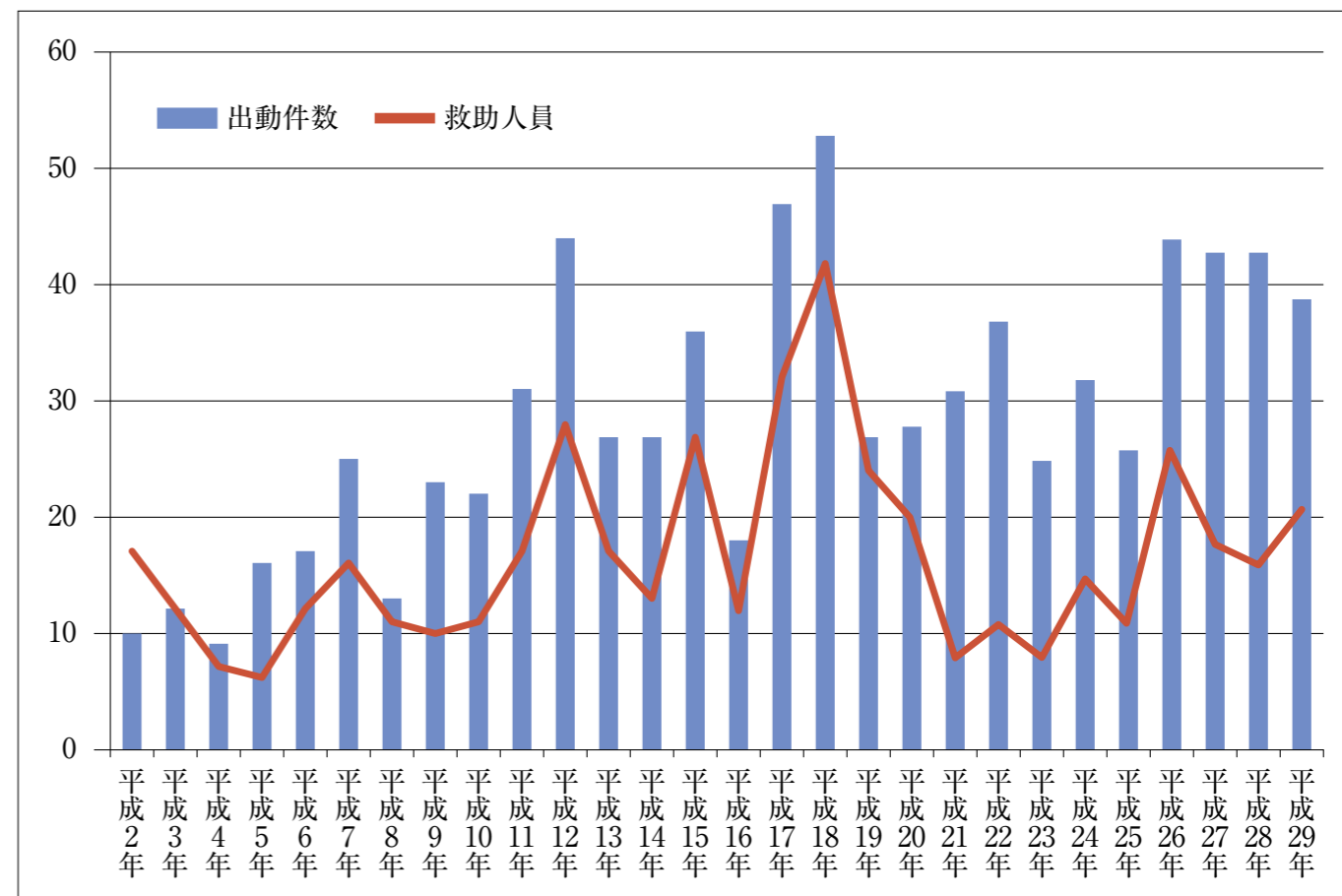
| 年 | 死亡 | 重症 | 中等症 | 軽症 | その他 | 年 | 死亡 | 重症 | 中等症 | 軽症 | その他 |
|-------|----|-----|-----|-----|-----|---------------|----|-----|------|------|-----|
| 昭和44年 | | | | | | 平成6年 | 35 | 185 | 517 | 841 | 0 |
| 昭和45年 | | | | | | 平成7年 | 45 | 198 | 587 | 1039 | 0 |
| 昭和46年 | | | | | | 平成8年 | 42 | 246 | 539 | 1000 | 2 |
| 昭和47年 | 17 | 26 | 174 | 568 | 0 | 平成9年 | 40 | 226 | 554 | 1098 | 0 |
| 昭和48年 | 17 | 71 | 273 | 544 | 0 | 平成10年 | 39 | 300 | 564 | 1113 | 0 |
| 昭和49年 | 19 | 81 | 218 | 648 | 0 | 平成11年 | 43 | 318 | 548 | 1212 | 0 |
| 昭和50年 | 22 | 78 | 280 | 684 | 0 | 平成12年 | 47 | 313 | 669 | 1235 | 1 |
| 昭和51年 | 14 | 96 | 359 | 669 | 5 | 平成13年 | 52 | 323 | 740 | 1191 | 0 |
| 昭和52年 | 13 | 115 | 379 | 721 | 5 | 平成14年 | 57 | 336 | 696 | 1250 | 1 |
| 昭和53年 | 21 | 95 | 382 | 716 | 1 | 平成15年 | 51 | 424 | 737 | 1333 | 1 |
| 昭和54年 | 11 | 111 | 438 | 716 | 1 | 平成16年 | 49 | 467 | 704 | 1504 | 0 |
| 昭和55年 | 16 | 142 | 363 | 645 | 2 | 平成17年 | 47 | 453 | 765 | 1624 | 0 |
| 昭和56年 | 19 | 157 | 379 | 635 | 2 | 平成18年 | 60 | 314 | 795 | 1557 | 0 |
| 昭和57年 | 18 | 121 | 395 | 600 | 0 | 平成19年 | 51 | 222 | 888 | 1688 | 0 |
| 昭和58年 | 31 | 168 | 423 | 627 | 0 | 平成20年 | 54 | 350 | 801 | 1511 | 0 |
| 昭和59年 | 29 | 160 | 422 | 648 | 0 | 平成21年 | 54 | 463 | 672 | 1580 | 0 |
| 昭和60年 | 19 | 143 | 433 | 634 | 0 | 平成22年 | 52 | 491 | 773 | 1604 | 0 |
| 昭和61年 | 27 | 149 | 433 | 645 | 0 | 平成23年 | 53 | 488 | 874 | 1751 | 0 |
| 昭和62年 | 32 | 154 | 468 | 712 | 0 | 平成24年 | 62 | 468 | 876 | 1915 | 0 |
| 昭和63年 | 45 | 147 | 490 | 779 | 0 | 平成25年 | 56 | 455 | 902 | 1926 | 0 |
| 平成元年 | 48 | 172 | 430 | 821 | 0 | 平成26年 | 54 | 613 | 858 | 1930 | 0 |
| 平成2年 | 46 | 150 | 517 | 903 | 0 | 平成27年 | 63 | 347 | 1106 | 1894 | 0 |
| 平成3年 | 47 | 112 | 495 | 901 | 0 | 平成28年 | 58 | 531 | 1007 | 1937 | 0 |
| 平成4年 | 42 | 140 | 493 | 889 | 0 | 平成29年 | 59 | 472 | 1197 | 1878 | 0 |
| 平成5年 | 41 | 181 | 505 | 912 | 0 | ※網かけ箇所は統計区分なし | | | | | |

死亡：初診時において、死亡が確認されたもの。死亡：初診時において、死亡が確認されたもの。
 重症(長期入院)：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの。
 中等症(入院診療)：傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの。
 軽症(外来診療)：傷病の程度が入院加療を必要としないもの。
 その他：医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの。

年齢区分別ごとの年別搬送人員

| 年 | 新生児 | 乳幼児 | 少年 | 成人 | 高齢者 | 計 | 年 | 新生児 | 乳幼児 | 少年 | 成人 | 高齢者 | 計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|---------------|-----|-----|-----|-------|-------|-------|
| 昭和44年 | | | | | | | 平成6年 | 4 | 95 | 127 | 874 | 478 | 1,578 |
| 昭和45年 | | | | | | | 平成7年 | 7 | 127 | 157 | 1,031 | 547 | 1,869 |
| 昭和46年 | | | | | | | 平成8年 | 9 | 124 | 144 | 961 | 591 | 1,829 |
| 昭和47年 | | | | | | | 平成9年 | 10 | 136 | 138 | 1,042 | 592 | 1,918 |
| 昭和48年 | | | | | | | 平成10年 | 15 | 141 | 141 | 1,048 | 671 | 2,016 |
| 昭和49年 | | | | | | | 平成11年 | 3 | 163 | 129 | 1,085 | 741 | 2,121 |
| 昭和50年 | | | | | | | 平成12年 | 5 | 179 | 170 | 1,132 | 779 | 2,265 |
| 昭和51年 | | | | | | | 平成13年 | 5 | 159 | 119 | 1,109 | 914 | 2,306 |
| 昭和52年 | | | | | | | 平成14年 | 4 | 154 | 117 | 1,098 | 967 | 2,340 |
| 昭和53年 | | | | | | | 平成15年 | 1 | 172 | 111 | 1,166 | 1,096 | 2,546 |
| 昭和54年 | | | | | | | 平成16年 | 2 | 181 | 118 | 1,237 | 1,186 | 2,724 |
| 昭和55年 | | | | | | | 平成17年 | 1 | 179 | 131 | 1,275 | 1,303 | 2,889 |
| 昭和56年 | | | | | | | 平成18年 | 2 | 167 | 129 | 1,180 | 1,248 | 2,726 |
| 昭和57年 | | | | | | | 平成19年 | 1 | 181 | 142 | 1,165 | 1,360 | 2,849 |
| 昭和58年 | | | | | | | 平成20年 | 1 | 135 | 123 | 1,088 | 1,370 | 2,717 |
| 昭和59年 | 2 | 154 | 178 | 707 | 218 | 1,259 | 平成21年 | 0 | 156 | 142 | 1,054 | 1,417 | 2,769 |
| 昭和60年 | 0 | 136 | 171 | 706 | 216 | 1,229 | 平成22年 | 0 | 118 | 119 | 1,047 | 1,636 | 2,920 |
| 昭和61年 | 2 | 153 | 156 | 707 | 236 | 1,254 | 平成23年 | 1 | 166 | 136 | 1,044 | 1,819 | 3,166 |
| 昭和62年 | 1 | 133 | 175 | 792 | 265 | 1,366 | 平成24年 | 2 | 191 | 141 | 1,038 | 1,949 | 3,321 |
| 昭和63年 | 2 | 117 | 178 | 840 | 324 | 1,461 | 平成25年 | 1 | 152 | 131 | 1,095 | 1,960 | 3,339 |
| 平成元年 | 3 | 118 | 180 | 836 | 336 | 1,473 | 平成26年 | 2 | 162 | 136 | 1,113 | 2,042 | 3,455 |
| 平成2年 | 1 | 128 | 167 | 922 | 398 | 1,616 | 平成27年 | 1 | 173 | 115 | 1,027 | 2,094 | 3,410 |
| 平成3年 | 1 | 93 | 136 | 931 | 394 | 1,555 | 平成28年 | 2 | 160 | 120 | 969 | 2,282 | 3,533 |
| 平成4年 | 2 | 117 | 133 | 905 | 407 | 1,564 | 平成29年 | 0 | 137 | 143 | 961 | 2,365 | 3,606 |
| 平成5年 | 7 | 122 | 144 | 901 | 465 | 1,639 | ※網かけ箇所は統計区分なし | | | | | | |

年別救助出動件数及び救助人員



| 年 | 出動件数 | 救助人員 | 年 | 出動件数 | 救助人員 |
|-------|------|------|-------|------|------|
| 平成2年 | 10 | 17 | 平成16年 | 18 | 12 |
| 平成3年 | 12 | 12 | 平成17年 | 47 | 32 |
| 平成4年 | 9 | 7 | 平成18年 | 53 | 42 |
| 平成5年 | 16 | 6 | 平成19年 | 27 | 24 |
| 平成6年 | 17 | 12 | 平成20年 | 28 | 20 |
| 平成7年 | 25 | 16 | 平成21年 | 31 | 8 |
| 平成8年 | 13 | 11 | 平成22年 | 37 | 11 |
| 平成9年 | 23 | 10 | 平成23年 | 25 | 8 |
| 平成10年 | 22 | 11 | 平成24年 | 32 | 15 |
| 平成11年 | 31 | 17 | 平成25年 | 26 | 11 |
| 平成12年 | 44 | 28 | 平成26年 | 44 | 26 |
| 平成13年 | 27 | 17 | 平成27年 | 43 | 18 |
| 平成14年 | 27 | 13 | 平成28年 | 43 | 16 |
| 平成15年 | 36 | 27 | 平成29年 | 39 | 21 |

防火対象物数(各年12月31日現在)

| | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
| 昭和43年 | 昭和44年 | 昭和45年 | 昭和46年 | 昭和47年 | 昭和48年 | 昭和49年 | 昭和50年 | 昭和51年 | |
| 193 | 368 | 401 | 459 | 581 | 688 | 694 | 703 | 743 | |
| 昭和52年 | 昭和53年 | 昭和54年 | 昭和55年 | 昭和56年 | 昭和57年 | 昭和58年 | 昭和59年 | 昭和60年 | |
| 774 | 819 | 836 | 892 | 909 | 935 | 961 | 951 | 978 | |
| 昭和61年 | 昭和62年 | 昭和63年 | 平成1年 | 平成2年 | 平成3年 | 平成4年 | 平成5年 | 平成6年 | |
| 993 | 1,006 | 1,043 | 1,069 | 1,088 | 1,092 | 1,111 | 1,145 | 1,162 | |
| 平成7年 | 平成8年 | 平成9年 | 平成10年 | 平成11年 | 平成12年 | 平成13年 | 平成14年 | 平成15年 | |
| 1,204 | 1,227 | 1,240 | 1,250 | 1,264 | 1,264 | 1,262 | 1,269 | 1,275 | |
| 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | |
| 1,271 | 1,278 | 1,289 | 1,294 | 1,280 | 1,278 | 1,279 | 1,276 | 1,270 | |
| 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | | | | | |
| 1,278 | 1,283 | 1,237 | 1,227 | 1,219 | | | | | |

危険物施設数(各年12月31日現在)

| | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
| 昭和43年 | 昭和44年 | 昭和45年 | 昭和46年 | 昭和47年 | 昭和48年 | 昭和49年 | 昭和50年 | 昭和51年 | |
| 43 | 66 | 66 | 86 | 102 | 118 | 132 | 136 | 150 | |
| 昭和52年 | 昭和53年 | 昭和54年 | 昭和55年 | 昭和56年 | 昭和57年 | 昭和58年 | 昭和59年 | 昭和60年 | |
| 153 | 164 | 166 | 184 | 187 | 188 | 188 | 187 | 192 | |
| 昭和61年 | 昭和62年 | 昭和63年 | 平成1年 | 平成2年 | 平成3年 | 平成4年 | 平成5年 | 平成6年 | |
| 195 | 181 | 177 | 183 | 187 | 184 | 178 | 181 | 185 | |
| 平成7年 | 平成8年 | 平成9年 | 平成10年 | 平成11年 | 平成12年 | 平成13年 | 平成14年 | 平成15年 | |
| 188 | 187 | 186 | 185 | 184 | 180 | 171 | 171 | 165 | |
| 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | |
| 161 | 158 | 146 | 141 | 143 | 143 | 135 | 126 | 121 | |
| 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | | | | | |
| 117 | 113 | 114 | 113 | 117 | | | | | |



予防業務

近年、建物の大規模・高層化が進む一方、管理・営業形態の複雑・多様化が進み、防火対象物や危険物施設の使用方法なども日々大きく変化しています。

火災などの災害を未然に防ぐため、社会情勢等を適切に捉え、積極的に防火安全対策の推進に努めています。

①防火査察

消防法並びに火災予防条例に基づき防火対象物、危険物施設への定期的な査察や検査を行い、建物の管理方法や消防用設備等の状況を調査し、法令違反等があれば是正するよう指導しています。

②建物の防火安全指導

建物の設計段階から防火対策や消防用設備等の設置に関する指導を行っています。

③危険物の安全確保

危険物施設の設置等の許認可や危険物全般に関する安全確保のための指導を行っています。また、年に1回、危険物、高圧ガス、毒物及び劇物の移送・運搬車両の街頭検査の指導を実施しています。



広報活動

火災の原因はさまざまなものがありますが、その中でも放火が原因となる火災の割合が高いことから、消防本部では市ホームページや車両を使った広報活動、放火対策や防火に関する内容を記載したチラシを一般家庭や事業所に配布するなど、放火対策に努めています。また、園児及び小学生の消防署見学や中学生の職場体験等を通じ、幼少期より火災等の災害に対する意識の向上等を図っています。



住宅用火災警報器の設置に向けて

本市では、住宅用火災警報器の設置状況を把握し、適切に設置及び維持管理をしていただくことを目的として、戸建て住宅を対象に平成25年9月から平成28年12月末までに全戸訪問調査（共同住宅を除く）を実施し、以後も継続的に設置調査及び指導を実施しています。また、適切な設置・維持管理を目的として、看板や横幕、消防車両に啓発マグネットを設置し、市ホームページや市広報誌など、市民の目につきやすい場所に対して啓発活動を随時行っています。



消防・救急フェア

毎年、9月の「救急医療週間」に併せ、市内公共施設において消防・救急フェアを実施しています。内容は、ミニ救急法講習会、救急車や消防車の展示及び救急隊員によるデモンストレーション等の救急に関することや、救助隊・消防隊によるちびっこ救助訓練体験やミニ消防車の乗車体験等を行っています。今後も市民の方々の火災予防に関する意識や救急医療の対する正しい理解と認識の向上、また、消防を身近に感じていただけるような活動を実施していきます。



救急訓練

救急活動を取り巻く環境の変化や日々発展する医学に対応するため、本市は平成8年に救急救命士の運用を開始し、以後、救急隊員は訓練を通して知識、技術の向上に努めるとともに、市民の方々の救命率向上を目標に日々訓練を重ねています。



救命入門コース

市内の小学児童5・6年生を対象に授業の一環として、救命入門コースを実施しており、未来ある子供たちに救命の意識を根付かせるとともに、将来の救命率向上を目的とし、活動を行っています。



訓練業務

新名神高速道路の全線開通、新たな新市街地の整備や東部丘陵地の開発整備を控えるなか、市域の情勢や都市構造の変化による新たな災害に備えるべく、様々な訓練を実施し、隊員の知識・技術の向上を図るとともに各種資機材のさらなる充実・整備を図り、複雑多様化する災害事案に安全・確実・迅速に対応できるよう取り組んでいます。

また、市域の高層建物等に対応すべく、先端屈折30m級はしご車を更新配備するとともに、大規模火災による被害軽減のため、近隣消防本部と相互応援協定に基づく合同訓練を実施しています。



消防救助技術大会に向けた訓練

救助技術の向上及び決して諦めない精神力を培い、職員一丸となり、日夜厳しい訓練に取り組んでいます。

過去の実績では、第2回消防救助技術大会において水上の部（溺者搬送）で初めて全国大会へ出場、第3回大会では水上の部（溺者搬送）で全国第1位となりました。

全国消防救助技術大会へ出場した種目は、水上の部で2種目、陸上の部で4種目となっています。



溺者搬送



ほふく救出



ロープブリッジ渡過



ロープブリッジ救出



はしご登はん

全国消防救助技術大会出場歴

| 開催年度 | 開催地 | 出場種目 |
|-------------|------|-----------|
| 昭和48年(第2回) | 大阪市 | 溺者搬送 |
| 昭和49年(第3回) | 横浜市 | 溺者搬送 |
| 昭和50年(第4回) | 東京都 | 溺者搬送 |
| | | ロープブリッジ救出 |
| 平成3年(第20回) | 大阪市 | 基本泳法 |
| 平成16年(第33回) | 神戸市 | ほふく救出 |
| 平成20年(第37回) | 北九州市 | ロープブリッジ救出 |
| | | ロープブリッジ渡過 |
| 平成22年(第39回) | 京都市 | ロープブリッジ救出 |
| 平成29年(第46回) | 仙台市 | はしご登はん |
| | | ロープブリッジ救出 |

新名神高速道路開通に伴う合同訓練

平成29年3月の新名神高速道路「城陽～八幡京田辺JCT・IC」供用開始に伴い、高速道路上における消防、警察及び各関係機関との初動・連携・安全管理体制の強化、及び指揮命令系統の確立を図ることを目的に城陽市、京田辺市、八幡市の各消防本部、京都府警察本部、城陽、田辺、八幡の各警察署、NEXCO西日本、ドローン協会の9機関、車両13台、ドローン2機、総勢56名により高速道路上において合同訓練を実施し、相互応援及び協力体制を確認しました。

今後も継続的に合同訓練を実施し、災害対応に万全を期すこととしています。



CBRNE災害時を想定した訓練

昨今発生が危惧されているやテロ災害や各種化学薬剤の漏洩等の事故発生に備え、CBRNE（CHEMICAL 化学 BIOLOGICAL 生物 RADIONOLOGICAL 放射性物質 NUCLEAR 核 EXPLOSIVE 爆発物）災害対応訓練を実施しています。

本訓練の実施を通じ、傷病者や活動隊員の各種化学剤や生物剤への汚染に対する除染や被害の拡大防止方法、多数傷病者に対する救急措置、搬送方法等、消防活動上の様々な課題を検討するとともに必要資機材の整備に努めています。



現有車両

本署ポンプ1号車

| | | | |
|-------|-------------|-----|---------|
| 車名 | 日野 | 総重量 | 7,215kg |
| 型式 | TKG-XZU685M | 長さ | 575cm |
| 排気量 | 4.00L | 幅 | 192cm |
| 登録年月日 | H27.10.2 | 高さ | 294cm |



本署梯子1号車

| | | | |
|-------|-------------|-----|----------|
| 車名 | 日野 | 総重量 | 19,880kg |
| 型式 | 2DG-PR1APJF | 長さ | 1,060cm |
| 排気量 | 8.86L | 幅 | 249cm |
| 登録年月日 | H30.11.21 | 高さ | 352cm |



本署ポンプ2号車

| | | | |
|-------|------------|-----|---------|
| 車名 | 日野 | 総重量 | 4,710kg |
| 型式 | PD-XZU334M | 長さ | 570cm |
| 排気量 | 4.00L | 幅 | 188cm |
| 登録年月日 | H18.2.21 | 高さ | 276cm |



本署救助1号車

| | | | |
|-------|--------------|-----|----------|
| 車名 | 日野 | 総重量 | 11,895kg |
| 型式 | SDG-GX7JGAA改 | 長さ | 786cm |
| 排気量 | 6.40L | 幅 | 232cm |
| 登録年月日 | H24.3.29 | 高さ | 317cm |



本署ポンプ3号車

| | | | |
|-------|-----------|-----|---------|
| 車名 | 三菱 | 総重量 | 4,920kg |
| 型式 | KK-FG53EC | 長さ | 553cm |
| 排気量 | 5.24L | 幅 | 188cm |
| 登録年月日 | H12.3.6 | 高さ | 283cm |



本署指揮1号車

| | | | |
|-------|-------------|-----|---------|
| 車名 | トヨタ | 総重量 | 2,855kg |
| 型式 | CBF-TRH226K | 長さ | 549cm |
| 排気量 | 2.69L | 幅 | 188cm |
| 登録年月日 | H27.10.8 | 高さ | 247cm |



本署タンク1号車

| | | | |
|-------|--------------|-----|----------|
| 車名 | 日野 | 総重量 | 10,910kg |
| 型式 | SDG-GX7JGAA改 | 長さ | 662cm |
| 排気量 | 6.40L | 幅 | 230cm |
| 登録年月日 | H29.2.22 | 高さ | 297cm |



本署指令1号車

| | | | |
|-------|----------|-----|---------|
| 車名 | トヨタ | 総重量 | 1,715kg |
| 型式 | E-GS130改 | 長さ | 469cm |
| 排気量 | 1.98L | 幅 | 169cm |
| 登録年月日 | H7.3.28 | 高さ | 163cm |



本署救急1号車

| | | | |
|-------|-------------|-----|---------|
| 車名 | トヨタ | 総重量 | 3,205kg |
| 型式 | CBF-TRH226S | 長さ | 565cm |
| 排気量 | 2.69L | 幅 | 189cm |
| 登録年月日 | H29.11.22 | 高さ | 249cm |



久津川ポンプ1号車

| | | | |
|-------|-------------|-----|---------|
| 車名 | 日野 | 総重量 | 7,095kg |
| 型式 | TKG-XZU685M | 長さ | 587cm |
| 排気量 | 4.00L | 幅 | 192cm |
| 登録年月日 | H31.1.21 | 高さ | 302cm |



本署救急2号車

| | | | |
|-------|-------------|-----|---------|
| 車名 | トヨタ | 総重量 | 3,155kg |
| 型式 | CBF-TRH226S | 長さ | 564cm |
| 排気量 | 2.69L | 幅 | 189cm |
| 登録年月日 | H20.3.11 | 高さ | 253cm |



久津川救急1号車

| | | | |
|-------|-------------|-----|---------|
| 車名 | トヨタ | 総重量 | 3,245kg |
| 型式 | CBF-TRH226S | 長さ | 562cm |
| 排気量 | 2.69L | 幅 | 189cm |
| 登録年月日 | H26.2.10 | 高さ | 249cm |



本署資機材搬送1号車

| | | | |
|-------|------------|-----|----------------------|
| 車名 | トヨタ | 総重量 | 2,420kg (6,445kg) |
| 型式 | TKG-XZU640 | 長さ | 528cm |
| 排気量 | 4.00L | 幅 | 189cm |
| 登録年月日 | H25.8.6 | 高さ | 233cm |



久津川資機材搬送1号車

| | | | |
|-------|------------|-----|----------------------|
| 車名 | トヨタ | 総重量 | 2,170kg (3,350kg) |
| 型式 | LDF-KDY271 | 長さ | 445cm |
| 排気量 | 2.98L | 幅 | 169cm |
| 登録年月日 | H29.10.16 | 高さ | 225cm |



査察車

| | | | |
|-------|-----------|-----|---------|
| 車名 | 三菱 | 総重量 | 1,340kg |
| 型式 | GD-U61V | 長さ | 339cm |
| 排気量 | 0.65L | 幅 | 147cm |
| 登録年月日 | H13.10.31 | 高さ | 195cm |



青谷ポンプ1号車

| | | | |
|-------|-----------|-----|---------|
| 車名 | いすゞ | 総重量 | 4,630kg |
| 型式 | PB-NKR81N | 長さ | 565cm |
| 排気量 | 4.77L | 幅 | 188cm |
| 登録年月日 | H17.3.7 | 高さ | 276cm |



青谷タンク1号車

| | | | |
|-------|--------------|-----|----------|
| 車名 | 日野 | 総重量 | 11,860kg |
| 型式 | SDG-GX7JGAA改 | 長さ | 730cm |
| 排気量 | 6.40L | 幅 | 230cm |
| 登録年月日 | H27.2.5 | 高さ | 303cm |



青谷救急1号車

| | | | |
|-------|-------------|-----|---------|
| 車名 | トヨタ | 総重量 | 3,195kg |
| 型式 | CBF-TRH226S | 長さ | 562cm |
| 排気量 | 2.69L | 幅 | 190cm |
| 登録年月日 | H25.1.17 | 高さ | 249cm |



青谷資機材搬送1号車

| | | | |
|-------|---------|-----|--------------------|
| 車名 | スズキ | 総重量 | 820kg (1,280kg) |
| 型式 | V-DD51T | 長さ | 329cm |
| 排気量 | 0.65L | 幅 | 139cm |
| 登録年月日 | H9.2.25 | 高さ | 196cm |



あとがき

このたび、消防本部発足50周年という節目の年を迎えるにあたり、記念誌を作成いたしました。

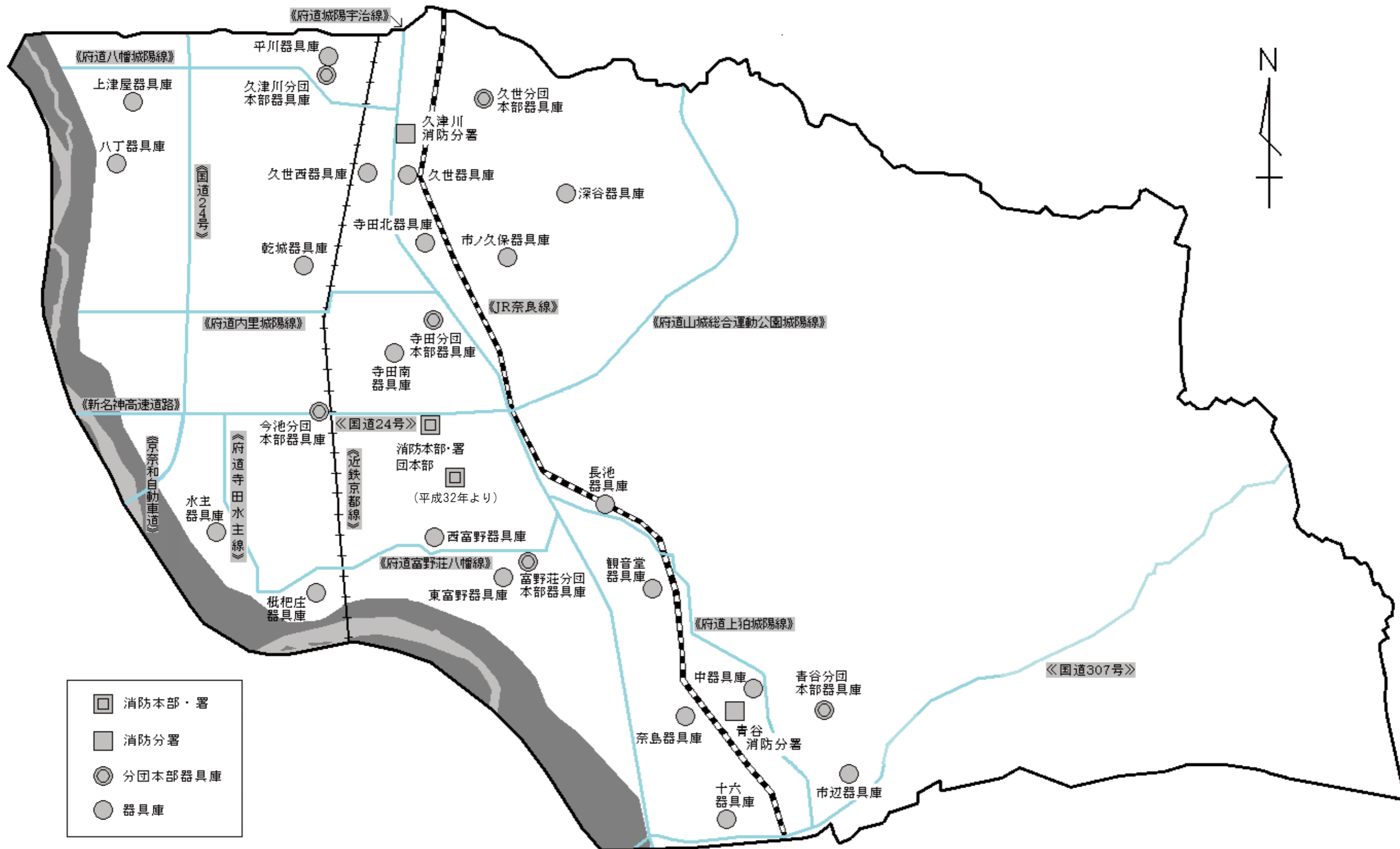
編纂に際しましては、昭和43年4月1日の開設から現在までの当消防本部の取り組み及び災害対応、消防組織や装備の移り変わりなどの写真や資料収集等、編集作業に取り組み、本記念誌の完成となりました。

本誌の内容につきまして、時間的制約など意を尽くせなかったところもありますので、乱筆のほどご容赦いただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、本誌の編纂に際しまして、ご協力をいただきました皆様方に心から感謝申し上げますとともに、今後ともご支援・ご指導くださいますようお願いいたします。あとがきとさせていただきます。

発行日 平成31年(2019年)3月
編集発行 京都府城陽市消防本部 総務課
〒610-0111
京都府城陽市富野久保田1-1
TEL 0774(54)0113
城陽市HP <http://www.city.joyo.kyoto.jp>

消防施設配置図(平成30年現在)



新消防庁舎完成予想図



新消防庁舎概要(予定)

所在地：城陽市富野東田部33番地

敷地面積：6426.06㎡

構造：鉄筋コンクリート造 3階建
(消防訓練塔副塔併設)

建築面積：1554.66㎡

建築延面積：3623.53㎡

